

新技術登録申請書 作成マニュアル

【目次】

事前相談.....	1
申請情報.....	3
・新技術概要説明情報.....	4
・詳細説明資料（根拠資料の入力）	26
・比較表.....	32

◆「事前相談」について

- ・事前相談のまえに、NETISホームページにて、[申請マニュアル](#)、[実施要領](#)及び[実施規約](#)等を必ず確認してください。
- ・「事前相談」では、技術内容（「新技術」なのか、従来技術は妥当か、など）の確認を行い、NETIS登録申請の受理の可否を判断します。

※「新技術」とは以下の全ての条件を満たす技術になります。

- ・論理的な根拠があり、技術的な事項に係る性能、機能等が当該技術の目的や国が定める基準等を満足することが、技術を開発した民間事業者等により実験等の方法で確認されていること
- ・実用化している公共工事等に関する技術
- ・当該技術の適用範囲において従来技術に比べ活用の効果が同程度以上の技術又は同程度以上と見込まれる技術
- ・また、四国技術事務所では、オンライン事前相談とは別に、[技術内容確認資料\(事前用\)](#)及び[申請技術と既技術\(従来技術\)との比較資料](#)の作成をお願いしています。NETIS登録申請の受理の可否判断資料になるため、新技術相談窓口から提出依頼がありましたら作成～提出してください。

■事前相談

NETIS
NEW TECHNOLOGY INFORMATION SYSTEM

新技術の検索

登録申請/変更・更新
/事前相談

活用効果調査表
/活用計画書

テーマ設定型
の比較表

マッチング

維持管理技術
ページ

震災復旧・復興
支援技術ページ

NETIS登録・
活用数の全体像

マニュアル
/FAQ

■新技術登録申請 事前相談

1 記入年月日

2 会社名等

3 代理による
手続きの場合▼

4 今回登録を希望する技術名称(仮)

5 製品化した時期 (年月を記載)

6 登録分類 (工種)

7 技術の概要

8 従来技術

9 従来技術に対して、どこに新規性があるのか？
(従来技術と比較して何を改善したのか?)

10 技術概要や新規性、効果等が把握できるパンフレット・説明資料・画像の添付
(注意：3 ファイルまで 合計10MB まで、pdf.jpg.png.tif.gif.bmp.xdwのみアップロード可)

11 入力内容の確認

記入年月日

会社名・協会等名
所在地
都道府県
担当部署
担当者氏名
問合せ先 (メールアドレス) ※受付状況などやりとりは、こちらのアドレスに送信されます。
問合せ先 (電話) ※平日9:00～17:00に連絡が取れる番号

今回登録を希望する技術名称(仮)
製品化した時期 (年月を記載)

登録分類 (工種) ※登録分類の内容は、こちらを参照して下さい。
分類1 分類1 レベル1 分類1 レベル2
分類2 分類2 レベル1 分類2 レベル2

技術の概要 ①何について、何をする技術なのか？
②従来はどのような技術で対応していたのか？
③比較対象となる従来技術
④従来技術に対して、どこに新規性があるのか？
(従来技術と比較して何を改善したのか?)

技術概要や新規性、効果等が把握できるパンフレット・説明資料・画像の添付
(注意：3 ファイルまで 合計10MB まで、pdf.jpg.png.tif.gif.bmp.xdwのみアップロード可)
ファイル1
ファイルを選択 選択されていません。
ファイル2
ファイル2
ファイルを選択 選択されていません。
ファイル3
ファイルを選択 選択されていません。

コメント欄 (報告者のコメント) (※)、申請者のコメント (※))
申請者が確認書 (申請窓口) に伝えたいことがある場合、または確認書 (申請窓口) が申請書へ伝えたいことがある場合は、ここにコメントを入力してください。
図面等のファイルで伝えたい場合は、以下の「ファイルの選択」よりファイルを選択してください。
ファイルを選択 選択されていません。

- 1 記入年月日

2 会社名等

3 代理による
手続きの場合

4 技術名称(仮)

5 製品化した
時期

6 登録分類

7 技術の概要

8 従来技術

9 新規性

10 技術概要や
新規性、効果
等が把握でき
るパンフレット・
説明資料・
画像
- ☐事前相談の記入した年月日を記入してください。

☐申請する新技術の技術的な内容に関する問合せ先について、会社名・協会等名、所在地、担当部署、担当者氏名、メールアドレス、電話番号を記入してください。
☐電話番号は平日9:00～17:00に連絡が取れる番号としてください。
☐代理手続きの場合、上記と同様の内容を記入してください。

☐申請する新技術の名称をフルネームで記入してください。

☐製品化した時期を選択してください。

☐プルダウンメニューより、レベル1～レベル2まで選択してください。
(注) 分類については、**申請した新技術を主として活用される分類(工種)を記入**してください。
☐分類が複数あるものは、分類2も入力してください。
(注) 評価する際に適用となる工種は分類1になります。

☐申請する技術の概要について、「何について、何をする技術なのか?」、「②従来はどのような技術で対応していたのか?」を記入してください。

☐申請する新技術の比較対象となる「従来技術名」を挙げてください。

☐申請する技術の新規性について、「従来技術に対して、どこに新規性があるのか?」を記入してください。

☐技術概要や新規性、効果等が把握できるパンフレット・説明資料・画像を添付してください。
☐添付する資料は3 ファイルまで合計10MB までとします。

☐事前相談の内容、必要に応じてコメントを入力後、「入力内容の確認」をクリックしてください。
→本画面で入力する登録分類(工種)の内容に従い、当該工種を担当する地方整備局等の窓口へ申請内容が送信されます。

◆「技術概要資料（申請資料）」について

- ・「技術概要資料」は、申請技術の概要説明資料であり、NETISにてインターネット上に公表され、多くの方が閲覧する資料になるため、文章は簡潔且つ万人に分かりやすい表現にして下さい。
 - ・また、NETIS閲覧者が申請技術を活用するか否かの判断に利用されることが多いため、比較評価の根拠を明らかにする必要があります。
- ※優位性をうたっていても根拠が無ければ「信頼性のない技術」と判断されてしまいます。
- ・「技術概要資料（申請資料）」は、基本的に従来技術との比較により、新技術を評価（優位性の整理）するようになっています。
 - ・適正な従来技術を選定し、比較評価するようにして下さい。

■技術概要資料

1.「技術名称」「副題」「技術開発年」「記入年月日」「情報の提供範囲」

A

技術名称

技術名称は、他の様式と整合させて下さい。
技術名称
新技術情報提供システム（NETIS）登録申請書（様式1）に記載した技術名称と同様として下さい。

B

副題

副題
申請する技術の用途等に関連した副題を記入して下さい。

C

技術開発年

技術開発年
申請する技術を開発した西暦年を半角で入力して下さい。

D

記入年月日

記入年月日
技術概要説明資料（様式2）を作成した年月日を半角で入力して下さい。

E

情報提供の範囲

☐一般 ☒国土交通省のみ
情報提供範囲
原則、「一般」選択して下さい。

【申請情報】

- ☐記載内容が詳細説明資料と整合がとれているかを確認しましたか？👉[Point](#)
→各項目の記載内容を整合させてください。
- ☐記述内容が明らかに間違っていないか、誤字、脱字はないか、を確認しましたか？
- ☐添付画像(写真、図面、グラフ・表等)について、画像、文字、数字が鮮明か、読みやすいかを確認しましたか？

2.「分類・区分」

F 分類・区分 LV1から順に選択してください。（申請者が主に活用される分類1に入力してください。）分類一覧をダウンロード

分類1

レベル1
共通工

レベル2
排水・廃棄物工

レベル3

レベル4

分類2

レベル1

レベル2

レベル3

レベル4

分類3

レベル1

レベル2

レベル3

レベル4

分類4

レベル1

レベル2

レベル3

レベル4

分類5

レベル1

レベル2

レベル3

レベル4

分類

プルダウンメニューより、レベル1～レベル4まで選択して下さい。（注）分類については、申請した新技術をもととして活用される分（工種）を記入して下さい。
分類が複数あるものは、分類2以降も入力して下さい。（注）評価する際に適用となる工種は分類1です。
例1：従来技術との比較については分類1に記載した工種で比較すること。
レベル1：上水道、下水道、畜産など31工種から選択して下さい。
レベル2：レベル1を細分化したもので、例えば、レベル1：土工の場合、土工、管渠敷設工、陸揚改良工、船渠掘土工、土工管理、その他
レベル3：レベル2を細分化したもので、例えば、レベル2：土工管理の場合、土工管理
レベル4：レベル3を細分化したもので、例えば、レベル3：土工管理の場合、土工管理、土工管理管理、その他

G

区分

区分

プルダウンメニューより、該当する区分を選択して下さい。
「土工」、「材料」、「機械」、「製品」、「システム」から選択して下さい。なお、各区分の定義は次のとおりです。
「土工」：材料、機械、製品、システム等を組み合わせることにより、工事の一部、あるいは全体を完遂させるに足る方法。
「材料」：公共工事等において、加工、添加等されることにより用を成す原料、資材。
「機械」：公共工事等に用いる建設機械、作業用機械。
「製品」：公共工事等により製作、製造される物を構成する一部材であり、新たな加工を要さないもの。
「システム」：材料、製品、機械等が体系的に組み合わせられ、公共工事等における工法、調査方法等を支援するものや、IT等の先端技術を利用した情報システム、施工管理や維持管理に利用するマネジメント技術などを指す。
分類および区分について、ご不明な点がありましたら、申請・相談窓口にご相談して下さい。

A 技術名称

- ☐申請する新技術の名称をフルネームで記入してください。
- ☐NETIS登録後は技術名称を基本的に変更できません。👉[Point](#)
- ☐商標登録されていないか、既にNETISに登録されている技術名称と同一ではないですか？
- ☐また、名称に「新」を付けたり、型番や会社名を入れていないですか？
- ☐技術名称は、技術の内容及び特色が容易に理解できる名称になっていますか？

B 副題

- ☐技術名だけでは不明なものを補完し技術内容が把握できるものになっていますか？
- ☐特にその技術の内容、開発目標が簡潔に記載されていますか？

C 開発年

- ☐申請年次より未来になっていませんか？

D 記入年月日

- ☐登録申請書の作成(記入、変更)日になっていますか？
→追加記入や内容変更した場合でも、時系列で管理が出来ます。

E 情報提供の範囲

- ☐「一般」を選択していますか？
→原則「一般」を選択してください。👉[Point](#)

F 分類

- ☐適正な分類を選択していますか？
- ☐分類1は従来技術に対する分類を選択していますか？ →事後評価において重要となります。

G 区分

- ☐各区分の定義に沿ったものを選択していますか？
※区分の定義は次のとおりです
「工法」：材料、機械、製品、システム等を組み合わせることにより、工事の一部、あるいは全体を完遂させるに足る方法。
「材料」：公共工事等において、加工、添加等されることにより用を成す原料、資材。
「機械」：公共工事等に用いる建設機械、作業用機械。
「製品」：公共工事等により製作、製造される物を構成する一部材であり、新たな加工を要さないもの
「システム」：材料、製品、機械等が体系的に組み合わせられ、公共工事等における工法、調査方法等を支援するものや、IT等の先端技術を利用した情報システム、施工管理や維持管理に利用するマネジメント技術などを指す。

5.「概要」

概要

①何について何をする技術なのか？

語学チェック

凡例：チェック対象文字、修正候補

語学・読字チェックの結果をここに表示します

②従来は、どのような技術で対応していたのか？

語学チェック

凡例：チェック対象文字、修正候補

語学・読字チェックの結果をここに表示します

③公共工事のどこに適用できるのか？

語学チェック

凡例：チェック対象文字、修正候補

語学・読字チェックの結果をここに表示します

④その他

語学チェック

凡例：チェック対象文字、修正候補

語学・読字チェックの結果をここに表示します

概要

概要は、以下の点に対して簡潔書きで簡潔に記入して下さい。
①何について何をする技術なのか？
②従来は、どのような技術で対応していたのか？
③公共工事のどこに適用できるのか？
④その他の必要がある場合は、「④その他」に記述して下さい。

6.「概要写真」「概要表」

概要写真

この画像がサムネイルに設定されます。

ファイルをドラッグ&ドロップしてください。または

参照...

ファイルが選択されていません。

登録済み写真名:

※画像サイズは2MBまでのものとしてください。

概要写真タイトル

写真

申請する新技術が良く分かる写真（原則カラー）を使用して下さい。
選択ボタンを押すと「ファイルを開く」という画面が出て画像ファイルを選択できます。
写真タイトルも必ず記入して下さい（全角25文字以内）。
写真（図）などのファイル形式は、JPEGあるいはgif形式を使用して下さい。
画像ファイルの大きさは2M以内にして下さい。
画像の横は最大600pixel以内、縦は1000 pixel以内にして下さい（縦A4サイズで出力できる）。
図面を利用する場合は、プリントアウトした時に文字や数字などがはっきり分かるものを使用して下さい。

M 概要

「概要」全般

☐ 各項目間に空白行を設けていますか？

☐ 文頭に「・（中点）」を用いて、文章を整理して下さい。

※各項目間の空白行の挿入、及び文頭の中点の配置により、「読みやすい文章」になるように整理します。

①何について何をする技術なのか？

☐ 簡潔な表現になっていますか？

→捕捉説明が必要な場合は「④その他」などの見出しで追記できるため、当該項目では簡潔な表現にして下さい。

②従来はどのような技術で対応していたのか？

☐ 適正な従来技術を選定していますか？  [Point](#)

☐ 従来技術は様式3と統一されたものになっていますか？  [Point](#)

☐ 従来技術の概要について簡潔に説明できていますか？

→「技術名称」と「技術概要(施工要領など)」を二段書きで記載することを勧めます。

【記載例】

・●●工法

▲▲を用いて■ ■を行う工法であり、◎ ◎が必要となる。

③公共工事のどこに適用できるのか？

☐ 妥当性のある工種(工事)を選定していますか？  [Point](#)

☐ 様式3「使用可能な工事の種類」と同様の内容になっていますか？  [Point](#)

※該当する工種(工事)は複数記載することが可能です

④その他

☐ 様式3「使用可能な工事の種類」と同様の内容になっていますか？

※「専門用語」や「申請技術固有の用語」等があれば補足説明することを勧めます。  [Point](#)

●概要写真

☐ 画像の添付は必須ではありませんが、申請技術のアピールのために添付することを勧めます。

→「百聞は一見に如かず」ではありませんが「見せる」ことも重要だと考えます。  [Point](#)

☐ 技術の優位性や特徴が一目で分かるようなものを添付していますか？

→視覚的に技術概要が理解できるものを勧めます。

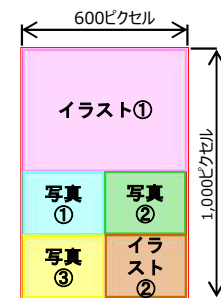
※画像ファイルはjpeg又はgif形式で、ファイルサイズは185KB以下(横600pix×縦1000pix以下)。

※複数の画像を結合して1画像にすることで多くの写真を添付することができます。(左下図参照)  [Point](#)

※プリントアウトした時に文字や数字などがはっきり分かるものを使用して下さい。

③公共工事のどこに適用できるのか？

●概要写真タイトル



【参考図：画像ファイル(結合例)】

※写真又はイラスト等の画像1ファイルを用いることができます。
→貼ることのできる画像ファイルはjpeg、gif、bmp、png形式で、
サイズは2MB以下として下さい

[illegible]

7. 「新規性及び期待される効果」

新規性及び期待される効果 ①どこに新規性があるのか？（従来技術と比較して何を改善したのか？）

組字・脱字チェックの結果をここに表示します

語彙・融字チェックの結果をここに表示します

誤字・脱字チェックの結果をここに表示します

従来対象となる「従来技術」がない場合は、申請・特許窓口にご相談下さい。

従来技術に比してどのような効果や期待される点についての概要を以下の点に付し、必要書類を郵送にてご提出し、ご入札に入札して下さい。

①どこに特許性があるのか？（従来技術とはどこを何で改善したのか？）

②期待される効果は？（新技術活用の特長は？）

改善点は、可能な限り数量化して下さい。

例）コストの削減

従来技術は、後述する「従来技術」との比較（技術的効果）で記入したものを示しています。

M 概要

- 概要表
 - 詳細説明資料と同様の内容になっていますか？
- 概要表タイトル

- ☐ 文頭に「・(中点)」を用いて、文章を整理して下さい。

- ①どこに新規性があるのか？

→【上記表現が出来ない場合】優位性や特徴を表現した内容になっていますか？

- 変更要因を物理的、理論的に表現できていますか？

- ②期待される効果は？

- 「□□に変えたことにより××が●●%向上する」のような表現になっていますか？

→【上記表現が出来ない場合】優位性や特徴を表現した内容になっていますか？

※「経済性」「工期・工程」については、可能な限り定量化した表現にして下さい。(〇〇%削減、〇〇%短縮など)

- ☐ 詳細説明資料で実証確認した事項と整合していますか？

※詳細説明資料で比較評価していない事項については記載しない下さい。

- 詳細説明資料で実証確認した事項と整合していますか？

※「①どこに新規性があるのか？」と「②期待される効果は？」は対になるように記載して下さい。

 **Point**

N

效果写真

ファイルをドラッグ&ドロップしてください。
または、

ファイルを選択してください。

豐樂橋水庫風景

※画像サイズは2MBまでのものとしてください。

効果写真タイトル

- 写真等の解像度が良く分かる写真（原別カラー）を使用して下さい。
- 選択ボタンを押すと「ファイルを開く」という画面が出て画像ファイルを選択できます。
- 写真タイトルを必ず記入して下さい（全角25文字以内）。
- 写真（図）などのファイル形式は、JPEGあるいはGIF形式を使用して下さい。
- 画像ファイルの大きさは2M以内にして下さい。
- 画像の解像は最大600pixel以内、縦は1000 pixel以内にして下さい（画A4サイズで812まで）。
- 図表を利用する場合は、プリントアウトした時に文字や数値などがはっきり分かるものを使用して下さい。

効果表 ※ 条件により新技術の効果が変わる場合等に利用してください。

見出し 列数 0 行数 0

[illegible]

効果表タイトル

表

一覧表が作成できます。
20列×20行まで可能（行や列の挿入は出来ません）。

9.「技術概要(アブストラクト)」

O

技术概要

検索結果に表示する技術の概要です。全角127文字以内。半角カタカナ及び連続するスペースは入力できません。

誤字チェック 凡例：チェック対象文字、修正候補

国字・脱字チェックの結果をここに表示します

技術概要 (アブストラクト)

全角127文字以内で記入して下さい。

技術概要は、申請技術の特徴が明確にわかるように「概要」、「新規性及び期待される効果」で記述した内容を箇条にまとめて下さい。

例) 本技宮は、土留め、河川護岸、止水壁工事に用いる鉄矢張りであり、従来の、口型鋼矢張りに対応していた。本技宮の活用により、材料費・施工量の削減や工期の短縮が期待できる。

N

效果写真

- 効果写真
 - 画像の添付は必須ではありませんが、上記文章を補完できるようなものを貼り付けることを勧めます。
- ※注意事項についてはN概要●概要写真の項目を確認して下さい。
- 効果表
 - 表を用いて「新規性」「期待される効果」について表現することも可能です。

- 効果写真タイトル
- 効果表
 - 表を用いて「新規性」「期待される効果」について表現することも可能です。
- 効果表タイトル

O

技術概要

(アブストラクト)

- ☐ 申請技術の P R ができていますか？
- ☐ 従来技術と比較した内容になっていますか？  **Point**
- ☐ 申請技術を使用した際の期待される効果を記載していますか？

→「本技術は●●で従来は▲▲で対応していた。本技術の活用により■ ■が期待できる。」の記載要領を勧めます。

- N 概要、P 新規性及び期待される効果で記述した内容と整合が取れていますか？
※NETIS検索で最初に表示される文章です。申請技術に興味を持ってもらえるような表現になるように努めて下さい。

10. 「適用条件」



適用条件 全角1000文字以内。半角カタカナ及び漢字によるスペースは入力できません。

①自然条件

誤字チェック 凡例：チェック対象文字、修正候補

誤字・脱字チェックの結果をここに表示します

②現場条件

誤字チェック 凡例：チェック対象文字、修正候補

誤字・脱字チェックの結果をここに表示します

③技術提供可能地域

誤字チェック 凡例：チェック対象文字、修正候補

誤字・脱字チェックの結果をここに表示します

④関係法令等

誤字チェック 凡例：チェック対象文字、修正候補

誤字・脱字チェックの結果をここに表示します

適用条件は、申請する新施設の竣工・使用上の制約がわかるように、以下の点に対して箇条書きで簡単に記入して下さい。
自然条件：適用にあたっての自然条件に関する制約条件について記入して下さい（例：気候、地質、気象、等）。

現場条件：作業スペースや支障物などの制約条件について記入して下さい（例：作業スペース、機械の大きさ、施工場所、等）。

第二種低圧で運転の機械がある場合は、適用条件を簡単に記載して下さい。

技術提供可能地域：提供できない地域または提供地域が限定される場合、記載して下さい。

新施設を運用できる地域について、具体的な都道府県名と簡単な理由を記入して下さい。

制約がない場合は、「技術提供可能地域については制約無し」として下さい。

※技術提供可能地域：技術提供可能地域については制約無し

※技術提供可能地域：グランド設置地（〇〇県、〇〇市、〇〇町、〇〇市〇〇区）

※技術提供可能地域：九州地区限定（関係なし）

※関係法令等：法令上遵守しなければならない条件を記載して下さい。

※記載事項がない場合には、「特になし」と記入して下さい。



適用条件「適用条件」全般

☐ 各項目間に空白行を設けていますか？

☐ 文頭に「・(中点)」を用いて、文章を整理して下さい。

※各項目間の空白行の挿入、及び文頭の中点の配置により、「読みやすい文章」になるように整理します。

☐ 特筆すべき事項が無い項目については「・特になし」と記載して下さい。

①自然条件

☐ 気温や気象、地質など自然条件に関する制約について記載していますか？

☐ 詳細説明資料「自然条件」と同様の内容になっていますか？ [Point](#)

※各様式間の整合を図る必要があります。

②現場条件

☐ 作業スペースや施工機械、施工場所などに関する制約事項を記載していますか？

☐ 詳細説明資料「現場条件」と同様の内容になっていますか？ [Point](#)

※各様式間の整合を図る必要があります。

③技術提供可能地域

☐ 提供地域が限定されるか否かを確認していますか？

☐ 限定される場合は、具体的な都道府県名と簡単な理由を記載して下さい。

☐ 制約等が無い場合は「技術提供地域については制限なし」として下さい。 [Point](#)

④関係法令等

☐ 法令上遵守しなければならない条件(法令)を記載していますか？

※道路交通法、消防法 など

11. 「適用範囲」



適用範囲

全角1000文字以内。半角カタカナ及び漢字のスペースは入力できません。

①適用可能な範囲

誤字チェック 凡例： **チェック対象文字**、修正候補

誤字・脱字チェックの結果をここに表示します

②特に効果の高い適用範囲

誤字チェック 凡例： **チェック対象文字**、修正候補

誤字・脱字チェックの結果をここに表示します

③適用できない範囲

誤字チェック 凡例： **チェック対象文字**、修正候補

誤字・脱字チェックの結果をここに表示します

適用範囲

適用範囲は、技術として成立するために最低限必要な事項や管理係、関係係およびその引用元を、以下の表に対して備考欄まで簡潔に記入して下さい。
適用可能な範囲：理工系、機械などを記載して下さい。

特に効果の高い適用範囲：技術のアピールポイント（従来技術との比較→活用の効果）の欄と整合するように記入して下さい。
適用できない範囲：適用できない理由を簡潔に記載して下さい。

*記載事項が無い場合には、「特になし」と記入して下さい。



適用範囲

「適用範囲」全般

☐ 各項目間に空白行を設けていますか？

☐ 文頭に「・(中点)」を用いて、文章を整理して下さい。

※各項目間の空白行の挿入、及び文頭の中点の配置により、「読みやすい文章」になるように整理します。

☐ 特筆すべき事項が無い項目については「特になし」と記載して下さい。

☐ 詳細説明資料「適用範囲」と同様の内容になっていますか？ **Point**

①適用可能な範囲

☐ 施工量や規模、施工条件などを記載していますか？

※各様式間の整合を図る必要があります。

②特に効果の高い適用範囲

☐ 「活用の効果」(従来技術との比較)と整合がとれていますか？

☐ 妥当な条件を記載していますか？ 過剰な条件を設定していませんか？

③適用できない範囲

☐ 適用できない条件、理由を明確に記載していますか？

☐ 「①適用可能な範囲」が含まれていませんか？

④適用にあたり、関係する基準およびその引用元

☐ 施工管理基準やその他基準類、引用元を記載していますか？

※ ●●工ー●●指針、●●示方書・同解説、●●基準・同解説 など

11-2.「適用される基準」

R

適用される基準 ①設計基準

☐ なし

☐ 協会等の基準を適用

「協会等の基準を適用」を選択した場合は、その基準名および該当箇所を記載してください。

☐ 独自基準あり

「独自基準あり」を選択した場合は、その基準名および該当箇所を記載してください。

※「独自基準あり」を選択した場合は、その基準資料ファイルを選択してください。

ファイルをドラッグ&ドロップしてください。または

[参照...](#) ファイルが選択...れていません。

※ファイルサイズは20MBまでのものとしてください。

②積算基準

☐ なし

☐ 協会等の仕様情報を適用

「協会等の仕様情報を適用」を選択した場合は、その基準名および該当箇所を記載してください。

☐ 独自基準あり

「独自基準あり」を選択した場合は、その基準名および該当箇所を記載してください。

※「独自基準あり」を選択した場合は、その基準資料ファイルを選択してください。

ファイルをドラッグ&ドロップしてください。または

[参照...](#) ファイルが選択...れていません。

※ファイルサイズは20MBまでのものとしてください。

③施工管理基準

☐ なし

☐ 協会等の基準を適用

「協会等の基準を適用」を選択した場合は、その基準名および該当箇所を記載してください。

☐ 独自基準あり

「独自基準あり」を選択した場合は、その基準名および該当箇所を記載してください。

※「独自基準あり」を選択した場合は、その基準資料ファイルを選択してください。

ファイルをドラッグ&ドロップしてください。または

[参照...](#) ファイルが選択...れていません。

※ファイルサイズは20MBまでのものとしてください。

適用にあたり、関連する基準及び引用元

土木共通仕様書やその他基準類等を記入してください。

R

適用される基準

- ☐ 設計、積算、施工管理に適用される基準を記入してください。
- ☐ 土木共通仕様書やその他基準類等を記入してください。
- ☐ 発行年・発行元、項目、頁数も記述してください。
- ☐ 「独自基準あり」を選択した場合は、その基準資料ファイルを選択してください。
ファイルサイズは20MB までのものとしてください。
- ☐ 記載事項がない場合には、「なし」を選択してください。

12.「留意事項」

S

留意事項 全角1000文字以内、半角カタカナ及び国語するスペースは入力できません。

①設計時

誤字チェック 凡例: **チェック対象文字**、**修正候補**

誤字・脱字チェックの結果をここに表示します

②施工時

誤字チェック 凡例: **チェック対象文字**、**修正候補**

誤字・脱字チェックの結果をここに表示します

③維持管理時

誤字チェック 凡例: **チェック対象文字**、**修正候補**

誤字・脱字チェックの結果をここに表示します

④その他

誤字チェック 凡例: **チェック対象文字**、**修正候補**

誤字・脱字チェックの結果をここに表示します

留意事項

留意事項は、申請する新技術が国工あるいは使用するのであって、以下の点に対して意図をもって意図的に記入して下さい。
設計時：設計条件として必要な事項や留意事項を記入して下さい。

施工時：施工条件として必要な事項や留意事項を記入して下さい。
維持管理時：維持管理条件として必要な事項や留意事項を記入して下さい。
その他：特許権等知的財産権、特許使用料の有無や契約対象となる内容、意図点では確認が不十分な事項、その他、留意事項を記入して下さい。また、納入に期間が必要な場合、任意の数量に対する時期の目安について記載して下さい。

*記載事項がない場合には、「特になし」と記入して下さい。

S

留意事項

「留意事項」全般

- ☐ 各項目間に空白行を設けていますか？
- ☐ 文頭に「・(中点)」を用いて、文章を整理して下さい。
※各項目間の空白行の挿入、及び文頭の中点の配置により、「読みやすい文章」になるように整理します。
- ☐ 申請技術におけるマイナス点も記載して下さい。👉**Point**
- ☐ 特筆すべき事項が無い項目については「・特になし」と記載して下さい。

①設計時

- ☐ 設計条件としての必要な事項や留意事項について記載していますか？
- ☐ 様式4「設計条件」と同様の内容になっていますか？👉**Point**

※各様式間の整合を図る必要があります。

②施工時

- ☐ 施工条件としての必要な事項や留意事項について記載していますか？

③維持管理等

- ☐ 維持管理条件としての必要な事項や留意事項について記載していますか？

④その他

- ☐ 特許権等知的財産権、特許使用料の有無などについて記載していますか？
- ☐ (製品等の場合)納入に期間が必要な場合、任意の数量に対する時期の目安について記載していますか？

13. 「従来技術との比較(経済性・工程)」

U-1

活用の効果

T

従来技術名

U-2

経済性

☐ 向上 ☐ 同程度 ☐ 低下

比較の根拠

変化値

— %

工程

☐ 短縮 ☐ 同程度 ☐ 増加

比較の根拠

変化値

— %

W

活用の効果の根拠

経済性・工程の変化は必ず入力するを計算されます
数値は半角で入力してください

基準とする数量 単位

新技術の内訳追加

項目	仕様	数量	単位	単価	金額	摘要	編集/削除
合計 0 円 / 1 あたり							

従来技術の内訳追加

項目	仕様	数量	単位	単価	金額	摘要	編集/削除
合計 0 円 / 1 あたり							

工程：新技術 日 工程：従来技術 日

戻る▲

活用の効果

変化値

「活用の効果の根拠」にて算出された値が変化値として自動的に表示されます。

「経済性」、「工程」欄にある、「向上(短縮)」、「同程度」、「低下(増加)」のいずれかを選択すると「活用の効果の根拠」入力欄が灰になります。

比較の根拠

経済性と工程については、同程度であっても比較の根拠は必ず記入して下さい。

記入に際しては、何が向上したのか、何が低下したのか 等の「何」にあたる部分を具体的に記述して下さい(全角30文字以内)。

例) 安全性が向上した場合 → 落下事故が減少

活用効果の根拠

基準とする数量・単位

「基準とする数量」と「単位」を記入して下さい。

電力1、10、100を基準数量として記入して下さい。なお、これにより概い場合についても具体的な数量当りの費用として記入して下さい(「1式」当りは不可です)。

経済性

「経済性」の「新技術」および「従来技術」の金額が0円となっていないことを確認して下さい。

「経済性」の「変化値」は、下記の「新技術の内訳」と「従来技術の内訳」に記入すると自動計算され、表示されます。また、活用の効果欄の「経済性」の「変化値」にも表示されます。

工程

「工程」の「新技術」および「従来技術」の「日数」を記入して下さい。

「工程」の「新技術」および「従来技術」の「日数」が0日となっていないことを確認して下さい(「新技術」および「従来技術」とも工程が同じでも0日は不可です)。

「工程」の「変化値」は、下記の「新技術の内訳」と「従来技術の内訳」に記入すると自動計算され、表示されます。また、活用の効果欄の「工程」の「変化値」にも表示されます。

新技術の内訳・従来技術の内訳

「項目」、「仕様」、「数量(半角)」、「単位」、「単価(半角)」を入力して下さい。

「金額」は自動計算され、表示されます。

金額は、概工半値を算出するための内訳です。このため、必ずイニシャルコストで計算して下さい。なお、トータルコストが向上する場合は、比較の根拠に詳細を記述して下さい。

条件付で比較する場合は、「備考」に条件を記入して下さい。なお、比較における条件がない場合は、「特になし」と記入して下さい。

根拠資料の登録

「経済性」「工程」に記述した内容の根拠資料は、P2の「添付資料」に必ず登録してください。

T

従来技術名

☐ 妥当性のある従来技術(公共工事等で標準的に使用されている技術)を選定していますか？

☐ M概要(アブストラクト)、N概要②従来はどのような技術で対応していたのか？との整合はとれていますか？

☐ 詳細説明資料「従来技術」と同様の内容になっていますか？ [👉Point](#)

※各様式間の整合を図る必要があります。

U-1

活用の効果

☐ P新規性及び期待される効果の記載内容との整合はとれていますか？

☐ 詳細説明資料におけるそれぞれの項目と同様の評価内容(向上、同程度、低下)になっていますか？

[👉Point](#)

※各様式間の整合を図る必要があります。

※「経済性」「工程」についてはX活用の効果の根拠の結果が自動入力されます。

U-2

比較の根拠

☐ P新規性及び期待される効果の記載内容との整合はとれていますか？

☐ 詳細説明資料におけるそれぞれの項目と同様の記載内容になっていますか？ [👉Point](#)

※各様式間の整合を図る必要があります。

※「向上」「低下」の項目への記載は必須です。「同程度」の項目への記載については必須ではありません。

※「経済性」「工程」については「同程度」の評価であっても記載して下さい。

W

活用の効果の根拠

☐ 「基準とする数量」と「単位」について、申請技術、従来技術の条件を考慮した適正な数値を記載していますか？

※極力1、10、100等(丸め数値)を基準数量として下さい。

☐ 「経済性」について、積算資料を精査し「新技術の内訳」「従来技術の内訳」を記載して下さい。

☐ 「工程」について、工程表を精査し「工程(新技術)」「工程(従来技術)」を記載して下さい。

☐ (詳細説明資料)〈比較表〉の記載内容と同じになっていますか？

※添付資料に「積算資料」「工程表」が必要になります。 [👉Point](#)

14. 「従来技術との比較(品質・安全性・施工性・周辺環境への影響)」

※向上、もしくは低下を選択した場合、「比較の根拠」、「根拠資料の入力」を入力してください。

U-2

品質

☐ 向上

☐ 同程度

☐ 低下

比較の根拠

根拠資料の入力

W

安全性

☐ 向上

☐ 同程度

☐ 低下

比較の根拠

根拠資料の入力

W

施工性

☐ 向上

☐ 同程度

☐ 低下

比較の根拠

根拠資料の入力

U-3

周辺環境への影響

☐ 向上

☐ 同程度

☐ 低下

比較の根拠

根拠資料の入力

自由項目

☐ 向上

☐ 同程度

☐ 低下

比較の根拠

根拠資料の入力

(全角20文字)

自由項目

☐ 向上

☐ 同程度

☐ 低下

比較の根拠

根拠資料の入力

(全角20文字)

U-2 比較の根拠

- ☐ P 新規性及び期待される効果の記載内容との整合はとれていますか？
- ☐ 詳細説明資料におけるそれぞれの項目と同様の記載内容になっていますか？ [Point](#)
- ※各様式間の整合を図る必要があります。
- ※「向上」「低下」の項目への記載は必須です。「同程度」の項目への記載については必須ではありません。
- ※「経済性」「工程」については「同程度」の評価であっても記載して下さい。

U-3 自由設定項目

- ☐ 基本評価項目(経済性、工程、品質、安全性、施工性、環境)以外で比較評価する事項があれば、新たに項目を設けて比較評価して下さい。
- ☐ 詳細説明資料においても同様の評価項目がありますか？ [Point](#)
- ※各様式間の整合を図る必要があります。
- ※基本評価項目に含まれるか否かを再確認して下さい。

＜詳細説明情報＞入力画面（根拠資料の入力） → P.26『「詳細説明資料」について』参照

評価項目					
大	中	小	新規性	期待される効果	比較の根拠
品質	耐久性（材料）	小項目を入力	新技術が満足すべき基準値等を入力	基準値等を満たしているかを入力	検証結果を入力
	耐久性（形状）	小項目を入力	新技術が満足すべき基準値等を入力	基準値等を満たしているかを入力	検証結果を入力
	耐久性（能力）	小項目を入力	新技術が満足すべき基準値等を入力	基準値等を満たしているかを入力	検証結果を入力
	材料	小項目を入力	新技術が満足すべき基準値等を入力	基準値等を満たしているかを入力	検証結果を入力
施工	材料	小項目を入力	新技術が満足すべき基準値等を入力	基準値等を満たしているかを入力	検証結果を入力
	施工	小項目を入力	新技術が満足すべき基準値等を入力	基準値等を満たしているかを入力	検証結果を入力

活用の効果

各項目の3段階評価

各項目（品質・環境）について従来技術と比較して、3段階のうちから該当するものを必ず1つ選んで下さい。

比較の根拠

比較の根拠では、比較の結果、同程度以外の場合は、必ず記入して下さい。

記入に際しては、何が向上したのか、何が低下したのか、等の「何」にあたる部分を具体的に記述して下さい（全角30文字以内）。

例）安全性が向上した場合 → 落下事故が減少

根拠資料の登録

「品質」各項目に記載した内容の根拠資料を入力します。（別ウィンドウが立ち上がりします。）



15. 「その他、技術のアピールポイント等」「新技術のコストタイプ」

その他、技術のアピールポイント等

(全角127文字)

誤字チェック 凡例：チェック対象文字、修正候補

誤字・脱字チェックの結果をここに表示します

技術のアピールポイント

従来技術で対応しきれなかった、あるいは得意であった等に対し、本技術の有効性を箇条書きで簡潔に記述して下さい（全角127文字）。
申請技術の技術特性に応じた任意の技術的事項を2項目挙げることができます。（ただし、特許題目（発明性→機能）以外の技術的事項とし、その妥当性については、申請窓口で確認を受けて下さい。）



新技術のコストタイプ



技術の アピールポイント

□従来技術の課題、新技術の有効性などを表現していますか？

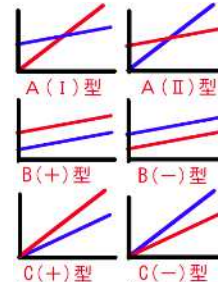
※活用の効果(経済性、工程、品質等の比較表)の直下に表示されるため、NETIS閲覧者の目に留まりやすい情報

になります。誇張の無い範囲で申請技術のアピールをしてください。 [Point](#)



新技術の コストタイプ

申請技術
従来技術



□適正なコストタイプを選択していますか？

◆損益分岐型：A

プラント設置などの初期投資に費用差があるが、ある一定量の施工量を超えれば単位あたりの単価が逆転するタイプ

A(I)型：従来技術と比べ、導入時にコストがかかるが、施工量が増えれば申請技術の単価が安くなるパターン

A(II)型：従来技術と比べ、導入時にコストはかからないが、施工量が増えれば申請技術の単価が高くなるパターン

◆平行型：B

導入の時点から単価差があり、施工量に関わらず単位当たりの単価差に変化がないタイプ

B(+)型：従来技術と比べ、導入時から申請技術の単価が安く、施工量に関わらずその差に変化がないパターン

B(-)型：従来技術と比べ、導入時から申請技術の単価が高く、施工量に関わらずその差に変化がないパターン

◆発散型：C

導入時の単価差の有無に関わらず、施工量に比例して単位当たりの単価差に変化があるタイプ

C(+)型：導入時の単価差の有無に関わらず、施工量に比例して単価差が増加するパターン（申請技術の方が安い）

C(-)型：導入時の単価差の有無に関わらず、施工量に比例して単価差が増加するパターン（申請技術の方が高い）

V

サイクルコスト型：D

基本的にはAタイプと同様であるが初期投資コストと経年との関係でサイクルコストとしての特性を表すパターン。維持管理費が関係する技術など。

※サイクルコスト型を選択する場合は以下の表を入力してください。

サイクルコスト（円／単位あたり）

	1年	3年	5年	10年
新技術				
従来技術				

☐ D(I)型 ☐ D(II)型

新技術のコストタイプ

新技術のコストタイプ別表示（コスト別グラフ）については、「必入力」ですので、コストタイプが分からない場合は、申請・招標窓口に確認して下さい。
 シーケルコストが発生する場合は、欄頭に詳細を記載して下さい。

■損益分岐点型：A

- ①A（I）型：従来技術と比べて、導入時にコストがかかるが、施工量が確保すれば単位が安く済むパターン。
 ②A（II）型：従来技術と比べて、導入時にはコストはかからないが、施工量が確保すれば単位が安く済むパターン。

■平行型：B

- ①B（+）型：従来技術と比べて、導入時から単位（新技術の方が安い）があり、施工量に問わず、その差に変化がないパターン。
 ②B（-）型：従来技術と比べて、導入時から単位（新技術の方が高い）があり、施工量に問わず、その差に変化がないパターン。

■発散型：C

- ①C（+）型：導入時の単位差の大きさに問わず、施工量に比例して、単位差が縮小（新技術の方が安い）パターン。
 ②C（-）型：導入時の単位差の大きさに問わず、施工量に比例して、単位差が増大（新技術の方が高い）パターン。

■タイプサイクルコスト型：D

- ①D（I）型：基本的には損益分岐点型Aと同様であるが初期投資コストと経年との関係（期間に応じて新技術のコストが一定）でサイクルコストとしての特性を表すパターン。
 ②D（II）型：基本的には損益分岐点型Aと同様であるが初期投資コストと経年との関係（期間に応じて新技術のコストが増加）でサイクルコストとしての特性を表すパターン。

サイクルコスト型（D）を選択した場合は、新技術と従来技術の1年、3年、5年後、10年後における単位当たりのコストを入力して下さい。

16.「施工単価」

Z

施工単価 全角1000文字以内、半角カタカナ及び漢字のみをスペース区切りで入力して下さい。

誤字チェック 凡例： **チェック対象文字**、**修正候補**

誤字・脱字チェックの結果をここに表示します

施工単価

文章

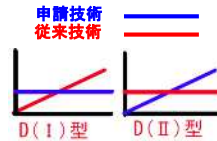
申請する新技術の単価及び積算率のいずれかが分かるように記入して下さい。
 施工条件等により価格が変わる場合には、一般的な施工条件で、標準的な標準で施工した場合の施工条件および単価等も記入して下さい。

算出条件に、経済性に加算されている内容として欄分け込みなのか、製品仕様のみなのか、簡易算出なのかを条件を記載して下さい。
 会社において歩掛がある場合は、歩掛が分かる資料を添付して下さい。
 採算性の算出根拠資料を添付して下さい。

適用条件（適用年次、地域等による算出の条件があるもの）を記入して下さい。
 採算性でコスト削減効果がある場合は、その効果が現れる適用範囲を記入して下さい。
 注）従来技術に対しての比率（設備単価）での記入は不可とします。また、物価資料、見積による等の表現も不可とします。必ず金額を示してください。

V

新技術の コストタイプ



☐ 適正なコストタイプを選択していますか？

◆サイクルコスト型：D

基本的にはAタイプと同様であるが初期投資コスト(施工費)と経年(維持管理費等)との関係でサイクルコストとしての特性を表すタイプ

D(I)型：期間に応じて新技術のコストが一定のパターン(初期投資コストがかかるが、維持管理費等が不要)

D(II)型：期間に応じて新技術のコストが増加するパターン(初期投資コストはかからないが、維持管理費等が必要)

※サイクルコスト型を選択した場合は、新技術と従来技術の1、3、5、10年後における単位当たりのコストを入力して下さい。

Z

施工単価

●文章

☐ X 新技術の内訳・従来技術の内訳における積算条件等を記載していますか？

☐ 標準的な現場条件を想定した単位・数量になっていますか？

※**施工(現場)条件、積算(単価)条件**などを記載して下さい。

※**施工単価算出**にあたり留意すべき点があれば記載して下さい。

※以下に記載例を示しますので参考にして下さい。

【記載例①】

☐ 施工条件

- ・護岸工(施工延長 ●●m)
- ・使用杭材：鋼矢板Ⅲw型、枚数=●枚、L=●m(圧入長●m)
- ・地盤条件：GL～●m:粘性土、最大N値=●、●～●m:砂礫層、最大N値=●

☐ 積算条件

(共通)

・使用単価：R ●●年●月（香川県）

・仮設費、運搬費は含まず

(新技術)

・使用歩掛：自社歩掛(R ●●年)

※施工条件により施工歩掛に変動がある。詳細については問合せが必要。

(従来技術)

・使用歩掛：国土交通省土木工事標準積算(R ●●年)

【記載例②】

☐ 施工条件

- ・路側排水工更生(施工延長 ●●●m)
- ・内空断面：幅 ●●●mm×深さ ●●●mm
- ・現場条件：交通規制が必要

☐ 積算条件

(共通)

・使用単価：R ●●年●月（香川県）

・仮設費、運搬費は含まず

※施工規模により安全管理費(交通誘導員労務費など)が変動。

(新技術)

・使用歩掛：自社歩掛(R ●●年)

※内空断面に変更がある場合は別途見積が必要。

(従来技術)

・既設水路撤去後、新たに路側排水工を設置

・使用歩掛：国土交通省土木工事標準積算(R ●●年)

●費用内訳表

☐ 申請技術の歩掛、単価表等を記載していますか？

※X 新技術の内訳・従来技術の内訳で詳細な内訳を記載している場合、製品・材料の「単価表」として整理しても良いです。

※歩掛表のチェックについて、適切なものを選択し、チェックを入れて下さい。

施工方法表 タイトル	
表	
上記文書を確認する一覧表が作成できます。（内容は、申請する新技術の施工手順フロー等、施工方法に関する図解であれば任意とします。） 20行、20行まで可能（行×列の購入は出来ません）。	

- **文章**
 - 申請技術を使用する場合の作業手順を、箇条書きで簡潔に記載していますか？
 - 下記添付画像とリンクさせるとより分かりやすくなります。👉[Point](#)
 - ※添付画像に施工工程フロー図が含まれている場合、フローに沿った記載方法をとることを勧めます。
 - ※フロー図では表記できないような工程の詳細を、番号(①,②,③…、Ⅰ,Ⅱ,Ⅲ…)や記号(A,B,C…)を活用してリンクさせると、施工方法がより分かりやすくなります。
- **施工方法写真**
 - 画像の添付は必須ではありませんが、上記文章を補完できるようなものを貼り付けることを勧めます。
 - フロー図を用いることで、施工方法の「見える化」が図れます。
 - フロー図のみではなく、状況写真も併せて示すことを勧めます。
 - ※申請技術と従来技術のフロー図を対比させて表現するとさらにその違いが表現できます。👉[Point](#)
 - ※注意事項についてはN概要●概要写真の項目を確認して下さい。
 - ※左図中に記載例を示しますので参考にして下さい。
- **施工方法表**
 - 上記添付画像において、解像度の問題でフロー図の並記ができなかった場合、当該表を用いて作業工程フローを表現することを勧めます。

a 19.「今後の課題とその対応計画」

今後の課題と
その対応計画

①今後の課題

語学チェック

凡例： **チェック対象文字**、**修正候補**

誤字・脱字チェックの結果をここに表示します

②対応計画

語学チェック

凡例： **チェック対象文字**、**修正候補**

誤字・脱字チェックの結果をここに表示します

今後の課題とその対応計画 欄

申請する新技術について、今後取り進んでいく事業およびその方向性について、以下の欄に対して事業費まで記入して下さい。

①今後の課題

②対応計画

b 20.「施工実績」

施工実績 実績件数（国土交通省）

国土交通省 0 件

国土交通省における施工実績（20件まで）

実績追加

工事名	事業種類	地方整備局名	事務所	施工開始	施工終了	CORINS登録番号	編集/削除
-----	------	--------	-----	------	------	------------	-------

実績件数（国土交通省以外）

その他公共機関 0 件

民間 0 件

国土交通省以外における施工実績（20件まで）

実績追加

工事名	発注者（種別）	発注者（事務所名等）	施工開始	施工終了	CORINS登録番号	編集/削除
-----	---------	------------	------	------	------------	-------

実績件数

申請する新技術の実績件数を記入して下さい。

実績件数が無い場合には、0件と記入して下さい。

事業種類の定義は、以下のとおりです。

技術活用パイロット：新技術を交付し、積算資料及び施工資料の整備等に関する事項を調査するために行う事業

特定技術活用パイロット：技術活用パイロットのうち建設技術協議会において特定した技術を対象として統一的かつ重点的に行うもの

試験フィールド：新技術を交付し、現場における適用性等、活用の効果等を検証するために行う事業

リサイクルモデル事業：パイロット事業において、技術により発生抑制や再生利用を行う事業

一般工事：一般の道路工事

特定試験フィールド：試験フィールドのうち建設技術協議会において特定された、事業執行上のニーズが特に高い技術を対象として、検証を行う事業として、検証を行う事業

その他：道路以外の工事

注1）実績件数は、発注者が国土交通省（旧建設省、旧運輸省）、その他公共機関、民間であるかを問わず記載します。

注2）施工期間は、元請け工事の施工期間を記入して下さい。

注3）CORINS登録番号はできるだけ確認して記入して下さい。また、事業実施の機会には、番号の後ろに（TECRIS）と記入してください。

実績追加

実績追加のボタンを押して、必要事項（工事名、事業種類、地整名、事務所名、CORINS登録番号、施工期間）を記入して下さい。

施工期間は、元請の施工期間ではなく、全体工期（その工事自体の契約期間）を記入して下さい。

注1）実績件数に記入した施工実績を全て「施工実績の内訳」に記入して下さい（必ず実績件数と施工実績との整合性を取ってください）。なお、件数が多く20件を超える場合は、最新の実績（もしくは代表的な実績）から順に記入するようにして下さい。

a 今後の課題と その対応計画

「残された課題と今後の開発計画」全般

☐ 各項目間に空白行を設けていますか？

☐ 文頭に「・（中点）」を用いて、文章を整理して下さい。

※各項目間の空白行の挿入、及び文頭の中点の配置により、「読みやすい文章」になるように整理します。

①今後の課題

☐ 申請技術に残された今後の課題（現状における課題）を記載していますか？

☐ 課題が無い場合は「特になし」として下さい。

②対応計画

☐ ①今後の課題に対する対応計画を記載を記載していますか？

☐ 対応計画が無い場合は「特になし」として下さい。

b 施工実績

「実績件数」全般

☐ 「国土交通省」「国土交通省以外の公共機関」「民間」それぞれの施工実績（件数）を記載していますか？

☐ 「実績件数」と「施工実績」の工事件数が同じになっていますか？

☐ 「実績件数」が20件を超えている場合は、「施工実績」へ最新の実績（もしくは代表的な実績）から順に記載し、最終行に「その他〇〇件」と記載して下さい。 **Point**

※必ず「実績件数」と「施工実績」を整合させて下さい。

☐ 「工事名」には正式な工事名を記載していますか？略称名称になっていませんか？

☐ 「施工開始」「施工終了」については、『申請技術の施工期間』ではなく、『施工実績に記載している工事の元請契約における工事期間』を記載して下さい。 **Point**

☐ 該当工事が終了していないものについては、実績になりません。 **Point**

☐ 「CORINS登録番号」はできる限り確認し記載して下さい。

※どうしても確認できなければ空白でも良いです。

※国土交通省、地方公共団体及びNEXCOの工事（業務）については、契約金額が500万円以上の工事、

100万円以上の業務であれば、CORINS又はTECRISの登録が義務付けられています。

※業務実績の場合には、番号の後ろに（TECRIS）を記載して下さい。 **Point**

●実績件数(国土交通省)

☐ 適切な「事業種類」を選択していますか？

技術活用パイロット：新技術を試行し、積算資料及び施工資料の整備等に関する事項を調査するために行う事業

特定技術活用パイロット：技術活用パイロットのうち建設技術協議会において特定した技術を対象として統一的かつ重点的に行うもの

試験フィールド：新技術を試行し、現場における適用性等、活用の効果等を検証するために行う事業

リサイクルモデル事業：パイロット事業において、技術により発生抑制や再生利用を行う事業

一般工事：一般の直轄工事

特定試験フィールド：試験フィールドのうち建設技術協議会において特定された、事業執行上のニーズが特に高い技術を対象として、検証を行う事業

その他：直轄以外の工事

※通常であれば「一般工事」が当てはまるものと思われます。 **Point**

☐ 「地方整備局名」「事務所名」をそれぞれ該当する名称をリストから選択していますか？

●施工実績(国土交通省以外)

☐ 「発注者（種別）」において適正な種別を選択していますか？

☐ 「発注者（事務所）」において正確な発注者名を記載していますか？

※「〇〇県△△土木事務所」のように「自治体名」と「部署」を併記して下さい。

☐ 民間企業（又は個人）による「民間の施工実績」については、発注者（民間企業又は個人）に対し「工事名」「発注者（事務所）」等に企業名称（個人名称）の使用の可否について確認して下さい。 **Point**

※特に個人名については「個人情報保護法」に抵触する恐れがあります。

※企業名称（個人名称）が使用できない場合は、「企業」「個人」を記載して下さい。

21.「特許・実用新案」

c

※ 通常実施権：特許権者が単独または複数の実施権者に対して当該技術を実施し得る権利を設定すること。
 専用実施権：特許権者が単独の実施権者に対して独占的に当該技術を実施し得る権利を設定すること。

特許・実用新案

特許情報1 特許番号 特許 ☐ 有り ☐ 出願中 特許-通常実施権 ☐ 有り ☐ 無し 特許-専用実施権 ☐ 有り ☐ 無し 特許権者 実施権者 特許料等 実施形態 問合せ先		特許情報2 特許番号 特許 ☐ 有り ☐ 出願中 特許-通常実施権 ☐ 有り ☐ 無し 特許-専用実施権 ☐ 有り ☐ 無し 特許権者 実施権者 特許料等 実施形態 問合せ先	
特許情報3 特許番号 特許 ☐ 有り ☐ 出願中 特許-通常実施権 ☐ 有り ☐ 無し 特許-専用実施権 ☐ 有り ☐ 無し 特許権者 実施権者 特許料等 実施形態 問合せ先		特許情報4 特許番号 特許 ☐ 有り ☐ 出願中 特許-通常実施権 ☐ 有り ☐ 無し 特許-専用実施権 ☐ 有り ☐ 無し 特許権者 実施権者 特許料等 実施形態 問合せ先	
特許情報5 特許番号 特許 ☐ 有り ☐ 出願中 特許-通常実施権 ☐ 有り ☐ 無し 特許-専用実施権 ☐ 有り ☐ 無し 特許権者 実施権者 特許料等 実施形態 問合せ先		実用新案 ☐ 有り ☐ 出願中 ☐ 出願予定 ☐ 無し 有りの場合 : 特許番号 実施新案- 通常実施権 ☐ 有り ☐ 無し 実施新案- 専用実施権 ☐ 有り ☐ 無し 備考 全角1000文字以内。半角カタカナ及び漢字のスペースは入力できません。 	

d

c 特許詳細

- ☐ 申請技術に関する特許(出願中、予定含む)がある場合、特許情報はすべて記載してください。但し、6件以上あるものについては代表的な5件を選択し、記載してください。
- ☐ 申請者と特許取得者が異なる場合は、「特許使用同意書」が必要となります。  **Point**
- ☐ (特許有りの場合)「通常実施権」「専用実施権」何れかをチェックしていますか？
 ※いずれも当てはまらない場合もあります。
- ☐ (特許有りの場合)実施権者、特許料等などの項目を記載していますか？
- ☐ 特許関連資料を参考資料として添付してください。

d 実用新案

- ☐ 申請技術に関する実用新案(出願中、予定含む)がある場合、実用新案情報を記載してください。
 ※「特許番号」には「実用新案番号」又は「実用新案出願番号」を記載してください。
 ※「備考」に「実用新案取得内容(出願内容)」を記載してください。
- ☐ 申請者と実用新案取得者が異なる場合は、「実用新案使用同意書」が必要となります。
- ☐ (実用新案有りの場合)「通常実施権」「専用実施権」何れかをチェックしていますか？
 ※いずれも当てはまらない場合もあります。
- ☐ 実用新案関連資料を参考資料として添付してください。

特許・実用新案欄

特許・実用新案の有無、出願状況について、現状点(申請書類の提出時)におけるものを選択して下さい。

22. 「第三者評価・表彰等」

受賞

表彰制度	表彰の種類	受賞年度
☐ 国土技術開発賞		
☐ インフラDX大賞（旧：Construction大賞）		
☐ インフラメンテナンス大賞		
▽「その他大賞賞」に該当する表彰の種類はこちら		
☐ 日本建設機械施工大賞		
☐ 日本オープンイノベーション大賞		
▽「その他大賞賞」に該当する表彰の種類はこちら		
☐ 宇宙開発利用大賞		
☐ ものづくり日本大賞		
☐ 日本スタートアップ大賞		
▽「その他大賞賞」に該当する表彰の種類はこちら		
☐ ロボット大賞		
▽「その他大賞賞」に該当する表彰の種類はこちら		

e-1 第三者評価・表彰等

- 建設技術審査証明とは⇒建設審査証明協議会会員の公益法人による技術審査及び証明
 - ☐建設技術審査証明があれば「建設技術番号」「評価年月日」「評価機関」「関連URL」を記載してください。
 - ☐建設技術証明等の有効期限は過ぎていませんか？
※過去に建設技術審査証明を取得した技術であっても、有効期限が過ぎているものは無効になります。
 - ☐（建設技術審査証明がある場合）記載している事項の証明資料を添付資料にしていますか？
- 建設技術評価とは⇒昭和53年建設省告示第976号に基づいて、国土交通省が開発課題を提示し、それに対して民間が開発する技術を建設技術評価委員会の結果を受けて、国土交通大臣が評価を与えた技術
 - ☐建設技術評価があれば「建設技術評価番号」「評価年月日」「関連URL」を記載してください。
 - ☐（建設技術評価がある場合）記載している事項の証明資料を添付資料にしていますか？
- その他の制度等による証明とは⇒他省庁で行っている制度
 - ☐その他の制度等による証明があれば「制度の名称」「番号」「証明年月日」「証明機関名称」「関連URL」等を記載してください。
 - ☐（その他の制度等による証明がある場合）記載している事項の証明資料を添付資料にしていますか？
- 上記「建設技術審査証明」「建設技術評価」「その他の制度等による証明」を取得している場合は、証明項目、試験・調査内容、結果についての記載が必要になります。
 - ☐個々の「証明項目」「試験・調査内容」「結果」について記載していますか？
 - ☐添付資料漏れはありませんか？

e-2 評価・証明項目と結果

e-1

第三者評価・表彰等

建設技術審査証明	建設技術評価		
建設技術番号	建設技術評価番号		
評価年月日	評価年月日		
評価機関	URL		
URL			
その他の制度等による証明1	その他の制度等による証明2		
制度の名称	制度の名称		
番号	番号		
証明年月日	証明年月日		
証明機関名称	証明機関名称		
証明範囲	証明範囲		
URL	URL		
現在入力している新技術に関するものは入力しないでください。			
項目追加			
証明項目	試験・調査内容	結果	編集/削除

e-2

第三者評価・表彰等あれば記載して下さい。
また添付資料として提出して下さい。
※証明期間が過ぎているものはOUT
※更新した新しい証明書があれば、そちらを記載

第三者評価・表彰等

国土交通省及び建設技術審査証明協議会が実施している建設技術評価（建設技術開発助成制度）、建設技術審査証明事業、民間開発建設技術の技術審査・証明事業、港湾関係民間技術の確立審査・検証事業において、特定・証明された技術について、該当する箇所を記入して下さい。
建設技術審査証明とは、建設技術審査証明協議会会員の国土交通省所管である公益法人による技術審査および証明を示します。
但し、過去に建設技術証明を取得した技術であっても、有効期限が過ぎているものは、当該の証明が無効となります。
建設技術評価とは、昭和53年建設省告示第976号に基づいて、国土交通省（旧建設省）が開発課題を提示し、それに対して民間が開発する技術を建設技術評価委員会の結果を受けて、国土交通大臣が開発を与えた技術を示します。
港湾関係民間技術の確立審査・検証事業とは、平成12年10月から（財）港湾技術研究センターの自主事業として開始されたものです。この事業で評価を与えた技術を示します。
その他の制度等による証明とは、他省庁で行っている制度を示します。
第三者評価・表彰等を取っている場合は、追加ボタンを押して証明項目、試験調査内容、結果を記入して下さい。

23.「実験等実施状況」

[illegible]

**f 実験等
実施状況**

- **文章**
 - 新技術の成立性(技術的な事項に係る性能・機能等が、目的や基準等を満足すること)を証明する実験について記載していますか？
 - ※定量的な評価が可能な実験を行っていますか？
 - ※比較評価している事項が確認できる実験になっていますか？
 - ※比較評価している事項が多岐にわたる場合は、できる限り全ての実験結果を記載してください。
 - ※定量的な評価が可能な実験を行っていますか？
 - 従来技術との比較における証明資料になっていますか？
 - ※申請技術に係る数値等のみではなく、従来技術における同一条件下での試験結果が併記していますか？
 - 実験に関する資料を添付していますか？
 - 「いつ」「どこ」「何を」「どの様に」「どうなった」の要領で記載していますか？（左図記載例参照）
- **実験等実施状況写真**
 - 上記試験状況が確認できる写真や、試験結果を示すグラフ等の画像を貼り付けることを勧めます。
 - ※グラフを用いることで、試験内容(結果)を分かりやすく表現することができるとされます。👉 [Point](#)
 - ※注意事項についてはN概要 ● 概要写真の項目を確認してください。
- **実験等実施状況表**
 - 表を併用することで、試験内容(結果)をより分かりやすく表現することができるとされます。
👉 [Point](#)
 - 表の記載内容と上記文章との整合はとれていますか？

24.「添付資料」

※ファイルはPDF形式のみとし、登録した添付資料の合計が50MBまでとさせていただきます。

9

添付資料

添付資料1

ファイルをドラッグ&ドロップしてください。または

参照... ファイルが選択されていません。

タイトル

添付資料2

ファイルをドラッグ&ドロップしてください。または

参照... ファイルが選択されていません。

タイトル

添付資料3

ファイルをドラッグ&ドロップしてください。または

参照... ファイルが選択されていません。

タイトル

添付資料4

ファイルをドラッグ&ドロップしてください。または

参照... ファイルが選択されていません。

タイトル

添付資料

申請する新技術について、技術の成立性、適用性等を確認するための実験資料、図表資料等があれば、その資料を示す名称を記入して下さい。
パンフレット、学会等での発表論文（コピー可）等は、添付資料に食みます。
技術詳細説明資料（様式3）で記載する「⑦添付資料名・番号（根拠データ等）」の内容との整合を取るようして下さい。
ここに記入する資料は、NETIS掲載資料の要領に応じ、NETIS申請書より提供できるものとします。
提供できない資料については、記入の必要はありません。
注）提出して頂いた資料は、ご返却しませんのでご了承下さい。

9 添付資料

- ☐ 詳細説明資料の記載内容の根拠となる資料を添付していますか？
- ☐ 詳細説明資料における「⑦添付資料名・番号（根拠データ等）」と整合がとれていますか？
※「資料番号」及び「資料名」は同一のものにしてください。👉[Point](#)
- ☐ 積算資料・工程比較資料・基準書・実験実施結果報告書・パンフレット等、技術の成立性の証明に必要な資料を添付していますか？
- ☐ 「添付資料」は情報公開法の対象資料となります。公開されても問題が無い資料か、確認してください。
※情報公開したくない資料については「参考資料」として別途提出するようになっています。
👉[Point](#)
- ☐ 四国技術事務所では登録時の記載要領の統一化を図っています。下記要領で記載するようにしてください。

※「添付資料一(ダッシュ全角)1(半角数字)・(ドット全角)積算資料」で記載してください。

25.「参考文献」

h

参考文献 全角1000文字以内。半角カタカナ及び漢字のスペースは入力できません。

語学チェック 凡例：チェック対象文字、修正候補

語学・漢字チェックの結果をここに表示します

参考文献

添付資料以外のもので、申請する新技術において参考にした文献を記入して下さい。

26.「その他(写真)」 「その他ダウンロード資料(カタログ、独自技術指針等)」

i

その他 ※写真や図などは、GIFあるいはJPEG形式の画像ファイルにしてください。
※画像の横断は最大でも横600ピクセルにおさまるようにしてください。

その他写真1

ファイルをドラッグ&ドロップしてください。または
参照... ファイルが選択されていません。

登録済み写真名

※画像サイズは2MBまでのものとしてください。

その他写真1

タイトル

その他写真2

ファイルをドラッグ&ドロップしてください。または
参照... ファイルが選択されていません。

登録済み写真名

※画像サイズは2MBまでのものとしてください。

その他写真2

タイトル

その他写真3

ファイルをドラッグ&ドロップしてください。または
参照... ファイルが選択されていません。

登録済み写真名

※画像サイズは2MBまでのものとしてください。

その他写真3

タイトル

その他（写真及びタイトル）

申請する新技術がよく分かる写真（原色カラー）を使用して下さい。
選択ボタンを押すと「ファイルを選択」という画面が出て画像ファイルを選択できます。
写真タイトルを必ず記入して下さい（全角25文字以内）。
写真（図）などのファイル形式は、JPEGあるいはGIF形式を使用して下さい。
画像ファイルの大きさは185KB以内して下さい。
画像の横は最大600pixel以内、縦は1000 pixel以内にして下さい（縦A4サイズで出力できる）。
図面を利用する場合は、プリントアウトした時に文字や数値などがはっきり分かるものを使用して下さい。

その他ダウンロード資料(カタログ、独自技術設計マニュアル、概算基準等)

その他資料①

ファイルをドラッグ&ドロップしてください。または
参照... ファイルが選択されていません。

※ファイルはPDF形式のみとし、20MBまでのものとしてください。

タイトル

h

参考文献

- ☐ 添付資料以外のもので、申請技術の成立性に関して参考にした、一般的に入手可能な文献名、書籍名、インターネット上で入手可能な学会等での発表論文名等を記載してください。
- ☐ 「参考資料」を記載する項目ではありません。👉[Point](#)
- ☐ 文頭に「・(中点)」を用いて、参考文献を整理してください。

i

その他
(写真及び
タイトル)

- ☐ 画像の添付は必須ではありませんが、申請資料の特徴や優位性を分かりやすく表現できるようなのを貼り付けることを勧めます。
※「百聞は一見に如かず」ではありませんが、文章では伝わりにくいことも、画像等を用いることで分かりやすいものになると思われます。様式2本文中で表現しきれない事項を補完できるような画像を添付しすることを勧めます。👉[Point](#)
- ☐ 画像ファイルは3つまで貼り付けることができます。👉[Point](#)
※注意事項についてはN概要 ●概要写真の項目を確認してください。

27. 「比較表」

類似技術
(最大5件まで比較可能)

※類似するNETIS掲載新技術のNETIS番号を登録してください。

類似技術の追加 類似技術のリセット

NETIS番号	技術名称	比較する従来技術
---------	------	----------

比較表

※白色セルの欄内に画像を入力（ファイルを選択）してください。

	新技術 テスト（概要）	従来技術 1234
工法概要	テスト（概要）	
初略図		ファイルをドラッグ&ドロップしてください。または 参照... ファイルが選択されていません。 登録済み写真名: ※画像サイズは2MBまでのものとしてください。
経済性	0円/0（同程度）	0円/0
評価	-	-
工程・工期	0日/0（同程度）	0日/0
評価	-	-
品質	施工品質のばらつきを抑制できるため向上	
評価	○	-
自由項目		
評価	-	-
自由項目		
評価	-	-
NETIS 番号		-
備考		
総合評価	◎	-

比較表

□記載要領については、P.32「比較表について」を参照してください。



新技術情報提供システム（NETIS）登録申請書

受付連絡等：四国地方整備局

局長 殿

提出日

会社名	大日本ダイヤコンサルタント株式会社
会社名（ふりがな）	
代表者氏名	
代表者氏名（ふりがな）	
住所地	
電話	

「公共工事における新技術活用システム」の実施規約に同意の上、下記の通り申請します。
本申請技術は、NETIS登録技術とは同一技術でないことを制約します。

記

技術名称	●●工法
技術名称（ふりがな）	
商標名	
	※商標がある場合に記入
商標名（ふりがな）	
	※商標がある場合に記入
担当者窓口 氏名	大日本 太郎
担当者窓口 氏名（ふりがな）	
会社名	大日本ダイヤコンサルタント株式会社
所属	四国支店
郵便番号	
住所	香川県高松市藤屋町3-1
電話	
FAX	
E-mail	hosokawa_kotaro@dco.co.jp

実施規約

- とする。航行調査時の調査項目等は、NETIS申請者の希望等も勘案したうえで決めるものとする。
- 29.航行調査は、道路工事等において技術の成立性等申請情報の妥当性を確認するために行う調査であり、NETIS申請者が航行調査計画に基づき実施する。航行調査に係る費用は、NETIS申請者の負担とする。
- 30.発注事務所（工事請負契約書上の発注者をいう。以下同じ。）は、対象となる技術が難度の高い事後評価未実施技術の場合は、航行調査の調査内容、調査方法等について、評価会標準事務局を通じて関係研究機関の事前の承認を受けることができるものとする。
- 31.航行申請型（請負契約締結後発注の場合）における活用の申請に際しては、施工者はNETIS申請者と航行調査の実施等について協議を行うものとする。
- 32.航行申請型（発注者指定の場合）において、発注事務所は、活用を行う工事等の発注に当たり、新技術を指定し、活用の実施に必要な費用を適用の実施工事等の工事費に計上するものとする。
- 33.活用の実施に必要な費用は、原則として活用を行う工事等の実施箇所において標準的に使用される従来技術を用いた場合の標準標準費を上限とし、活用により標準標準費を超える費用が生じる場合は、航行調査にかかる費用とみなし、NETIS申請者の負担とする。ただし、評価会により画期的な技術と見込まれた技術又は評価会が従来技術に比べて優れた効果が見込まれ標準標準費を超える費用負担について考慮すべきと判断した技術については、この限りではない。また、単純技術を用いることで標準標準費を下回る場合は適切な費用を計上する。
- 34.航行申請型（請負契約締結後発注の場合）において、当該型による新技術活用が設計図書等で定められた事項に変更を行う場合を除き、当初契約額の改定は行わない。
- 35.活用効果調査は、発注事務所、NETIS申請者又は施工者それぞれが行うものとする。発注事務所は、対象となる技術が難度の高い事後評価未実施技術の場合は、評価会調査局を通じて関係研究機関に対して、資金性・耐久性等の技術的事項及び経済性等の事項に関する確認を依頼することができる。なお、関係研究機関において確認等を行うに当たって、専門家からなる検討会の開催に伴う費用や紙質の実施に伴う費用その他の特別な費用が発生する場合は、NETIS申請者が評価会を通じて関係研究機関に対して依頼を行うものとし、当該費用はNETIS申請者の負担とする。
- 36.NETIS申請者による活用効果調査に当たっては、信頼度の高い調査結果を得る観点から、調査方法及び調査結果について第三者機関等（難度の高い技術等の場合は第三者機関とする。）の確認を受けることができるものとする。



様式1:新技術情報提供システム(NETIS)登録申請書

□申請情報等の確認が完了した段階で、様式1の提出を依頼させていただきますので、その時に必要事項を記入のうえ、提出するようにしてください。

コメント欄（国語版のコメント）（※）、申請書のコメント）（※）

コメントを入力してください

ファイルを選択

選択されていません。

◆「詳細説明資料」について

- ・「詳細説明資料」は、申請技術と従来技術との比較により、新技術の機能・性能、優位性などを確認する資料となります。
- ・申請技術と従来技術との比較については、いずれの技術も数値等を用いて、できるだけ定量的に比較・評価するようにしてください。
定量的な評価が困難な場合は、この限りではありません。
- ・比較・評価には、その内容が確認できる資料が必要であり、その資料が無い場合は記載することができません。

※比較・評価には申請技術、従来技術、それぞれの確認資料が必要になります。

- ・ **技術概要資料** 及び **比較表** との整合を図ってください。

■「詳細説明資料」の記載要領（品質・出来形）

評価項目		
大	中	小
品質 1	耐久性（物性）	小項目を入力
	耐久性（形状）	小項目を入力
	耐久性（能力）	小項目を入力
	材料	小項目を入力
	施工	小項目を入力
	完成物	小項目を入力

1 小項目 ↔ 1

- 「中項目」に関連した項目になっていますか？
- 技術概要資料「新規性及び期待される効果」に記載している内容を網羅した項目立てになっていますか？。☛Point
- ※「中項目」に対し、複数の項目立てが必要となる場合は、行を挿入して、項目を追加してください。
- ※敢えて従来技術と比較する必要のない項目(例として同じ資機材、同じ適用範囲・規格など)については「－」とすることを勧めます。☛Point
- ※登録済みの類似技術の『小項目立て』や『記載方法』等を参考にすると良いかもしれません。
- 記入欄①～⑧の記載内容が「技術概要資料」「比較表」の「品質・出来形」と同じ内容になっていますか？☛Point
- ※記載コメントや評価結果の内容を整合させてください。
- ※各様式間の整合を図ってください。
- ※技術によって得られる成果物や材料、製品に関わる品質、施工に関わる品質管理、完成物に関する出来形管理など、基準に照らし合せて項目立てし記載してください。
- 耐久性
- ※技術によって得られる成果や技術自体が継続的かつ長期的に保持できる性能(耐久性)について記載してください。
- 【物性】：技術によって得られる成果物の耐久性に関わる物理的特性、化学的特性、又は物理的特性値、化学的特性値を保持できる期間。
- 【形状】：成果物の形状により得られる耐久性に関する事項、又は目的物の形状を保持できる期間。
- 【能力】：技術もしくは技術によって得られる能力、又は耐久性に関わる能力を示す特性値を保持できる期間。
- ※技術によって得られる成果物や材料、製品に関わる品質、施工に関わる品質管理、完成物に関する出来形管理など、基準に照らし合せて項目立てし記載して下さい。
- 【材料】：技術自体もしくは技術で用いる材料が具備する強度、密度、質量などの特性値。
- 【施工】：技術を適用する過程において必要な管理頻度や管理基準、規格値など。
- 【完成物】：技術によって得られる成果の正確さ、外からみた場合の寸法、形、大きさ、見栄えなど。

【参照】技術概要資料

品質	○向上	○同程度	○低下	比較のポイント	※参照資料の入力
安全性	○向上	○同程度	○低下	比較のポイント	※参照資料の入力
施工性	○向上	○同程度	○低下	比較のポイント	※参照資料の入力
周辺環境への影響	○向上	○同程度	○低下	比較のポイント	※参照資料の入力
小項目① （品質管理用）	○向上	○同程度	○低下	比較のポイント	※参照資料の入力
小項目② （品質管理用）	○向上	○同程度	○低下	比較のポイント	※参照資料の入力

【参照】比較表

	新技術 ○○○工法	従来技術 ***工法
工法概要	□□を用いた△△をする○○工法である。	□□を用いた△△をする**工法である。
概略図		
経済性	48,000円/100m ³ (12.73%向上)	55,000円/100m ³
評価	○	—
工期・工期	1日/100m ² (50.0%短縮)	2日/100m ²
評価	◎	—
品質・出来形	・□□年以上改修が不要 ・使用材料：JIS○○○ ・厚さ○○mmにより施工精度が向上	・△△年で改修が必要 ・使用材料：JIS○○○ ・厚さ△△mm
評価	○	—
現場条件	○m×○mの施工ヤードがあれば施工可能	○m×○mの施工ヤードがあれば施工可能
評価	△	—
設計条件	設計時に○○の確認が必要	設計時に○○の確認が必要
評価	△	—
安全性	・施工後に△△がない ・作業員に対する事故等の発生はない	・施工後に△△がない ・作業員に対する事故等の発生はない
評価	△	—
施工性	・施工範囲△△～□□により適用範囲の拡大が図れる ・○○の取り扱いに△△の有資格者が必要	・施工範囲▲▲～■ ・○○の取り扱いに△△の有資格者が必要
評価	◎	—
環境	○○をリサイクルし施工できる	○○の処分が発生
評価	○	—

■「詳細説明資料」の記載要領（安全性、施工性、周辺環境への影響）

評価項目		
大	中	小
安全性 2	構造	小項目を入力
	施工段階	小項目を入力

評価項目		
大	中	小
施工性 3	現場条件	小項目を入力
	適用範囲	小項目を入力
	自然条件	小項目を入力
	施工管理	小項目を入力
	難易度	小項目を入力

評価項目		
大	中	小
環境 4	社会環境	小項目を入力
	作業員環境	小項目を入力

2 安全性 ↔ 2

- 記入欄①～⑧の記載内容が「技術概要資料」「比較表」の「安全性」と同じ内容になっていますか？ **Point**
- ※記載コメントや評価結果の内容を整合させてください。
 - ※各様式間の整合を図ってください。
 - ※技術によって得られる成果物、システム及び、適用する過程における安全性について記載してください。但し、労働安全や運搬機材の安全性など労働安全衛生法上の安全性は含みません。
 - 【構 造】：技術によって得られる成果の構造、システムの安全性や、その成果を利用する場合の安全性(例として、交通安全や防災等に関するもの)。
 - 【施工段階】：施工中の現場内および第三者に対する安全性。

3 施工性 ↔ 3

- 記入欄①～⑧の記載内容が「技術概要資料」「比較表」の「工程」「施工性」「現場条件」「適用範囲」「自然条件」と同じ内容になっていますか？ **Point**
- ※記載コメントや評価結果の内容を整合させてください。
 - ※各様式間の整合を図ってください。
 - ※施工における工程、適用条件などについて記載してください。
 - 【合 理 化】：工程などシステムや機械の導入による合理化の程度。
※日数や時間、工程数による定量的な記載および評価としてください。
 - 【現場条件】：申請技術が適用可能な現場条件。
※「技術概要資料」「比較表」の「現場条件」と同じ内容を記載してください。
 - 【適用範囲】：申請技術が適用可能な適用範囲(制約条件など)。
※「技術概要資料」の「適用範囲」、「比較表」の「施工性」と同じ内容を記載してください。
 - 【自然条件】：申請技術が適用可能な自然条件(地形、地質、気象など)。
※「技術概要資料」の「自然条件」と同じ内容を記載してください。
 - 【施工管理】：申請技術の施工における管理項目や管理頻度など。
 - 【難 易 度】：申請技術の施工にあたっての難しさの程度(特殊作業、特殊機材使用の有無など)。

4 環境 ↔ 4

- 記入欄①～⑧の記載内容が「技術概要資料」「比較表」の「環境」と同じ内容になっていますか？ **Point**
- ※記載コメントや評価結果の内容を整合させてください。
 - ※各様式間の整合を図ってください。
 - ※技術によって得られる成果や技術自体によってもたらされる社会や作業員に与える影響について記載してください。
 - 【社会環境】：申請技術の施工時又は完成後に発生する地域や社会への影響。
※「様式2」「様式4」の「周辺環境への影響」と同じ内容を記載してください。
 - 【作業員環境】：当該技術の適用時に発生する現場内(作業環境)への影響。
※「技術概要資料」「比較表」の「周辺環境への影響」と同じ内容を記載してください。

【参照】技術概要資料

品質	〇向上	〇同程度	〇低下	比較のポイント	記載欄への入力
安全性	〇向上	〇同程度	〇低下	比較のポイント	記載欄への入力
施工性	〇向上	〇同程度	〇低下	比較のポイント	記載欄への入力
周辺環境への影響	〇向上	〇同程度	〇低下	比較のポイント	記載欄への入力
自然条件	〇向上	〇同程度	〇低下	比較のポイント	記載欄への入力
適用範囲	〇向上	〇同程度	〇低下	比較のポイント	記載欄への入力
現場条件	〇向上	〇同程度	〇低下	比較のポイント	記載欄への入力

【参照】比較表

	新技術 〇〇〇工法	従来技術 ***工法
工法概要	〇〇を用いた△△をする〇〇工法である。	〇〇を用いた△△をする**工法である。
概略図		
経済性	48,000円/100m ³ (12.73%向上)	55,000円/100m ³
評価	〇	—
工程・工期	1日/100m ² (50.0%短縮)	2日/100m ²
評価	◎	—
品質・出来型	・〇〇年以上改修が不要 ・使用材料:JIS〇〇〇 ・厚さ〇〇mmにより施工精度が向上	・△△年で改修が必要 ・使用材料:JIS〇〇〇 ・厚さ△△mm
評価	〇	—
現場条件	〇m×〇mの施工ヤードがあれば施工可能	〇m×〇mの施工ヤードがあれば施工可能
評価	△	—
設計条件	設計時に〇〇の確認が必要	設計時に〇〇の確認が必要
評価	△	—
安全性	・施工時に△△がない ・作業員に対する事故等の発生はない	・施工時に△△がない ・作業員に対する事故等の発生はない
評価	△	—
施工性	・施工範囲△△～〇〇により適用範囲の拡大が図れる ・〇〇の取り扱いに△△の有資格者が必要	・施工範囲▲▲～■ ・〇〇の取り扱いに△△の有資格者が必要
評価	◎	—
環境	〇〇をリサイクルし施工できる	〇〇の処分が発生
評価	〇	—

■「詳細説明資料」の記載要領（全体イメージ①）

評価項目			①	②	③	④	申請書記入欄			備考	
大	中	小	①現行基準値等	②現行基準との比較<結果>	③申請技術について実証により確認した数値等	④従来技術との比較<結果>	⑤申請技術の数値採取条件	⑥実証方法・機関	⑦添付資料名・番号 (複数データ等)	⑧基準値等の引用もと	
安全性	構造	〇〇の構造	施工後に△△がないこと	適合	△△がないことを確認している	従来も施工後に△△がないことと同等	施工実績	施工実績において 自社で確認	添付資料-2 〇〇〇工法施工要領	『土木工事共通仕様書 〇-〇-〇〇 △△』平成〇〇年版 P.△△～◇◇	—
	施工段階 ※後継工によって施工技術の安全性は異なる	作業員に対する事故等の発生しないこと	作業員に対する事故等が発生しないこと	適合	施工実績において作業員に対しての事故等は発生していないことを確認している	従来も作業員に対して事故等は発生していないことと同等	施工実績	施工実績において 自社で確認	添付資料-3 〇〇工事・施工計画書安全管理	自社基準	—
	物性	△△強度	△△強度 〇N/mm2	適合	△△強度 〇N/mm2であることを確認した	従来よりも△△強度が増加するので向上	△△試験 (財)〇〇試験センター	△△試験 (財)〇〇試験センター	添付資料-4 試験結果-表 P.〇	『土木工事共通仕様書 〇-〇-〇〇 △△』平成〇〇年版 P.△△～◇◇	—
	形状	□□の耐久性	□□がないこと	適合	□□による□□がないことを確認した	従来も□□による□□がないので向上	開口△△試験 (財)〇〇試験センター	□□試験 (財)〇〇試験センター	添付資料-4 試験結果-表 P.×	『道路橋示方書・同解説〇〇編』 (H△. △月) P.□□～△△	—
	能力	特性値を保持する期間	—	—	□□年以上改修が必要であることを確認している	従来は△△年で改修が必要なので向上	試験施工 社内保証	〇〇〇工法試験施工 社内保証	添付資料-4 試験結果-表 P.△	—	—
品質・出来形	材料	材料の規格	JIS〇〇〇	適合	使用材料はJIS〇〇〇であることを確認している	従来も使用材料はJIS〇〇〇〇なので同等	JIS規格 (財)〇〇試験センター	××試験 (財)〇〇試験センター	添付資料-4 試験結果-表 P.□	『土木工事共通仕様書 〇-〇-〇〇 △△』平成〇〇年版 P.△△～◇◇	—
	施工	使用機械	〇〇を使用して施工すること	適合	〇〇を使用して施工していることを確認した	従来も〇〇を使用するので同等	施工実績	施工実績において 自社で確認	添付資料-2 〇〇〇工法施工要領	自社規格	—
	完成物	〇〇の構造仕上げ	厚 ±〇〇mm	適合	厚 ±〇〇mmの範囲内であることを確認した	従来は±△△mmであることから、数値のばらつきを抑制できるため向上	施工実績	施工実績において 自社で確認	添付資料-2 〇〇〇工法施工要領	『土木工事共通仕様書 〇-〇-〇〇 △△』平成〇〇年版 P.△△～◇◇	—
施工性	合算値	工程	—	—	200m2/1日で施工できることを確認した	従来は100m2/日 30%の短縮なので向上	施工実績	施工実績において 自社で確認	添付資料-2 〇〇〇工法施工要領	—	—
	現場条件	作業スペース	〇m×〇mの作業スペースが必要	適合	〇m×〇mの作業スペースが確保 施工可能であることを確認している	従来も〇m×〇mの作業スペース が必要なので同等	試験施工	〇〇〇工法試験施工 社内保証	添付資料-4 試験結果-表 P.●	自社基準	—
	適用範囲	適用範囲	△△～□□の範囲内であること	適合	△△～□□の範囲内で施工可能であることを確認した	従来は△△～〇〇であることから、適用範囲の拡大が図れるため向上	試験施工	〇〇〇工法試験施工 社内保証	添付資料-4 試験結果-表 P.▲	自社基準	—
	自然条件	天候	悪天候時は施工しないこと	適合	悪天候時は施工していないことを確認している	従来も悪天候時は施工できないので同等	施工実績	施工実績において 自社で確認	添付資料-2 〇〇〇工法施工要領	自社基準	—
		気温	施工時の周囲温度が40℃以上、40℃以下であること	適合	施工時の周囲温度が40℃以上、40℃以下であることを確認している	従来も気温に関する制約があるの向上	施工実績	施工実績において 自社で確認	添付資料-2 〇〇〇工法施工要領	自社基準	—
	施工管理	施工管理項目及び頻度	施工管理〇〇mに1回	適合	毎の施工管理は、〇〇mに1回 行っていることを確認した	従来も施工管理が、〇〇mに1回 必要なので同等	施工実績	施工実績において 自社で確認	添付資料-2 〇〇〇工法施工要領	『土木工事共通仕様書 〇-〇-〇〇 △△』平成〇〇年版 P.△△～◇◇	—
	確信度	熟練工への依存度	有資格者による施工	適合	〇〇の取り扱いには、△△の有資格者 が行っていることを確認した	従来も〇〇の取り扱いには有資格者 によるので同等	施工実績	施工実績において 自社で確認	添付資料-2 〇〇〇工法施工要領	自社基準	—
	周辺環境への影響	社会環境	資源	〇〇のリサイクル	適合	〇〇をリサイクルし施工できることを確認している	従来は〇〇をリサイクルしていない ことから、廃棄物処理量の減少が 図れるため向上	◇◇試験 (財)〇〇試験センター	添付資料-4 試験結果-表 P.■	自社基準	—
	作業員環境	作業員環境	作業員環境への配慮	適合	作業現場において 作業員への配慮 を実施し、適切な配慮を講じていることを確認した	従来技術も申請技術と同様の事項 を行っているため同等	施工実績	施工実績において 自社で確認	添付資料-2 〇〇〇工法施工要領	『土木工事安全技術施工指針 安全措置一般』平成〇〇年版 P.〇〇～〇〇	—

①現行基準値等

□申請技術の施工における準用すべき基準等を記載していますか？

※できる限り数値を用いて定量的な記載を心がけてください。

※基準値等について当該項目に記載した場合、「②現行基準との比較」「⑧基準値の引用元」への記載が必要になります。👉Point

※小項目に該当する基準が無い場合は、「①現行基準値等」「②現行基準との比較」「⑧基準値の引用元」には「—」を記載してください。

②現行基準との比較<結果>

□「①現行基準値等」と「③申請技術について…」を比較し、その結果を客観的に記載していますか？

※比較結果は「適合」「不適合」で記載してください。👉Point

※「①現行基準値等」が「—」であれば「—」を記載してください。

③申請技術について実証により確認した数値等

□実証実験や試験施工、計算等で確認された事項を記載していますか？

※数値等を用い、できる限り定量的な内容にしてください。

※対応する基準内容によっては文章による表現である場合もあるため、適宜対応してください。👉Point

※「④従来技術との比較」と対比できる内容にしてください。

④従来技術との比較<結果>

□従来技術がもつ機能や性能と、申請技術との比較結果を併記していますか？

※「③申請技術について…」により確認した数値との比較結果を客観的に「向上」「同等」「低下」で記載してください。

□現行基準等との比較が同じ内容になる場合もありますが、従来技術より申請技術の方が誤差が少ない等の理由から「向上」となる場合もあります。👉Point

※その際は説明書きを記載してください。

□従来技術では該当する項目がなく比較出来ない場合は「従来は〇〇がないため比較できない」「従来は〇〇がないことから、△△が期待できるため向上」のように記載してください。👉Point

□当該項目における比較事項と評価結果が、「様式2」「様式4」と同一の内容になっていますか？👉Point

【記載例】

・「従来は〇〇であることから、△△が図れるため向上」

・「従来も〇〇であり管理基準値内の精度を有するが、施工精度が△△となるため向上」

・「従来も〇〇のため同等」

・「従来は〇〇の機能がない」

・「向上(セル内改行)従来は〇〇kgまでの耐久性のため」

・「低下(セル内改行)従来は〇〇にも適用できる」

■「詳細説明資料」の記載要領（全体イメージ②）

評価項目			申請書記入欄								備考
大	中	小	①現行基準値等	②現行基準との比較結果	③申請技術について実証により確認した数値等	④従来技術との比較結果	⑤申請技術の数値採取条件	⑥実証方法・機関	⑦添付資料名・番号（根拠データ等）	⑧基準値等の引用元	
安全性	構造	〇〇の構造	施工後に△△がないこと	適合	△△がないことを確認している	従来も施工後に△△がないことから同等	施工実績	施工実績において自社で確認	添付資料-2 〇〇〇工法施工要領	土木工事共通仕様書 〇-〇-〇 △△△ 平成〇〇年版 △△△～〇〇	—
	施工段階 ※労働安全衛生上の安全性等は含まない。	作業員に対する事故等の発生しないこと	作業員に対する事故等が発生しないこと	適合	施工実績において作業員に対しての事故等は発生していないことを確認している	従来も作業員に対して事故等は発生していないので同等	施工実績	施工実績において自社で確認	添付資料-3 〇〇工事・施工計画書安全管理	自社基準	—
耐久性	物性	△△強度	△△強度 〇N/mm ²	適合	△△強度 〇N/mm ² であることを確認した	従来も△△強度が増加するのと同様	△△試験	△△試験 財：〇〇試験センター	添付資料-4 試験結果-表 P.〇	土木工事共通仕様書 〇-〇-〇 △△△ 平成〇〇年版 △△△～〇〇	—
	形状	□□の耐久性	□□がないこと	適合	□□による□□がないことを確認した	従来も□□による□□がないので同等	開口△試験	□□試験 財：〇〇試験センター	添付資料-4 試験結果-表 P.×	道路橋示方書・同解説〇〇 （△△、△月）P.□□～△△	—
	能力	特性値を保持する期間	—	—	□□年以上劣化が必要であることを確認している	従来は△△年で劣化が必要なので同等	試験施工	〇〇〇工法試験施工社内保証	添付資料-4 試験結果-表 P.△	—	—
品質・出来形	材料	材料の規格	JIS〇〇〇	適合	使用材料はJIS〇〇〇であることを確認している	従来も使用材料はJIS〇〇〇なので同等	JIS規格	××試験 財：〇〇試験センター	添付資料-4 試験結果-表 P.□	土木工事共通仕様書 〇-〇-〇 △△△ 平成〇〇年版 △△△～〇〇	—
	施工	使用機械	〇〇を使用して施工すること	適合	〇〇を使用して施工していることを確認した	従来も〇〇を使用するので同等	施工実績	施工実績において自社で確認	添付資料-2 〇〇〇工法施工要領	自社規格	—
	完成物	〇〇の構造仕上げ	厚 ±〇〇mm	適合	厚 ±〇〇mmの範囲内であることを確認した	従来は±△△mmであることから、数値のばらつきを抑制できるため向上	施工実績	施工実績において自社で確認	添付資料-2 〇〇〇工法施工要領	土木工事共通仕様書 〇-〇-〇 △△△ 平成〇〇年版 △△△～〇〇	—
施工性	合算値	工程	—	—	200m ² /1日で施工できることを確認した	従来は100m ² /1日50%の短縮なので向上	施工実績	施工実績において自社で確認	添付資料-2 〇〇〇工法施工要領	—	—
	配置条件	作業スペース	〇m×〇mの作業スペースが必要	適合	〇m×〇mの作業スペースがあれば施工可能であることを確認している	従来も〇m×〇mの作業スペースが必要なので同等	試験施工	〇〇〇工法試験施工社内保証	添付資料-4 試験結果-表 P.●	自社基準	—
	適用範囲	適用範囲	△△～□□の範囲内であること	適合	△△～□□の範囲内で施工可能であることを確認した	従来は△△～〇〇であることから、適用範囲の拡大が図れるため向上	試験施工	〇〇〇工法試験施工社内保証	添付資料-4 試験結果-表 P.▲	自社基準	—
	作業条件	天候	悪天候時は施工しないこと	適合	悪天候時は施工していないことを確認している	従来も悪天候時は施工できないので同等	施工実績	施工実績において自社で確認	添付資料-2 〇〇〇工法施工要領	自社基準	—
		気温	施工時の周囲温度が40℃以上、40℃以下であること	適合	施工時の周囲温度が40℃以上、40℃以下であることを確認している	従来も気温に関する制約があるのと同様	施工実績	施工実績において自社で確認	添付資料-2 〇〇〇工法施工要領	自社基準	—
	施工管理	施工管理項目及び頻度	施工管理〇〇mに1回	適合	厚の施工管理は、〇〇mに1回行っていることを確認した	従来も施工管理が、〇〇mに1回必要なので同等	施工実績	施工実績において自社で確認	添付資料-2 〇〇〇工法施工要領	土木工事共通仕様書 〇-〇-〇 △△△ 平成〇〇年版 △△△～〇〇	—
	確信度	熟練工への依存度	有資格者による施工	適合	〇〇の取り扱いには、△△の有資格者が行っていることを確認した	従来も〇〇の取り扱いには有資格者によるので同等	施工実績	施工実績において自社で確認	添付資料-2 〇〇〇工法施工要領	自社基準	—
	周辺環境への影響	社会環境	資源	〇〇のリサイクル	〇〇をリサイクルし、施工できることを確認している	従来は〇〇をリサイクルしていないことから、廃棄物処理量の減少が図れるため向上	〇〇試験 財：〇〇試験センター	添付資料-4 試験結果-表 P.■	自社基準	—	—
		作業員環境	作業員環境	作業員環境への配慮	作業環境において作業員への〇〇を実施し、適切な配慮を講じていることを確認した	従来技術も申請技術と同様の事項を行っているため同等	施工実績	施工実績において自社で確認	添付資料-2 〇〇〇工法施工要領	土木工事安全技術施工計 安全措置一般②平成〇〇年版 △△△～〇〇	—

⑤申請技術の数値採取条件

- 「⑥実証方法・機関」で採取した「③申請技術について…」がどのように採取されたものなのかを記載していますか？
※一般的な条件の場合は「施工実績」「試験施工」「JIS〇〇」「〇〇試験」となります。
□具体的な条件がある場合は、具体的な数値や文書を記載してください。👉**Point**

⑥実証方法・機関

- データを採取した試験の名称やその内容、またそれはどこで行った試験なのかが分かるように具体的な機関名等が記載できていますか？
※実証方法(試験名等)と確認機関(自社、〇〇試験センター等)の両方の記載が必要です。👉**Point**

⑦添付資料名・番号(根拠データ等)

- 「③申請技術について…」の根拠資料を、記載及び添付していますか？
□添付資料番号は「様式3」の上方より順に付与していますか？
□「様式2」の「添付資料」と同じ資料名、番号になっていますか？
□情報公開したくない資料については「参考資料」として記載及び別途提出してください。
※「参考資料」は情報公開法の対象外として取り扱われます。👉**Point**

【記載例】

- ・添付資料-1. 積算資料
- ・添付資料-2. 〇〇〇工法施工要領

⑧基準値等の引用元

- 「①現行基準値等」に記載している基準値の引用元についての文書名(書籍名)を記載していますか？
□その基準が掲載されている箇所(ページ等)まで具体的に記載していますか？
※「①現行基準値等」が「-」であれば「-」を記載してください。

【記載例】

- ・〇〇基準〇編〇章〇
- ・△△法〇条〇項
- ・JIS〇〇
- ・自社基準

⑨備考

- 専門用語の補足説明などを記載するなどして、記入欄①～⑧までの記述内容がより分かり易くなるように工夫することを勧めます。
※NETIS閲覧者の中には、専門職でなく一般職の人もいるため、資料を分かり易くすることが申請技術を理解し、活用につながるものと思われます。👉**Point**

■「詳細説明資料」の記載要領（全体イメージ）

大	中	小	①既設基準等	②既設基準との比較結果	③申請技術について既設より確認した数値等	④従来技術との比較結果	⑤申請技術の取組要条件	⑥取組方法・機関	⑦添付資料名・番号（図説データ等）	⑧基準等の引用元	備考
安全性	構造	〇〇の構造	施工後に△△がないこと	適合	△△がないことを確認している	従来も施工後に△△がないことから同等	施工実績	施工実績において自社で確認	添付資料-2 〇〇〇〇工法施工要領	『土木工事共通仕様書 〇-〇-〇 △△』平成〇〇年版 P.△△～◇◇	—
安全性	施工要領	作業員に対する事故等の発生しないこと	作業員に対する事故等の発生しないこと	適合	施工要領において作業員に対しての事故等は発生していないことを確認している	従来も作業員に対して事故等は発生していないことから同等	施工実績	施工実績において自社で確認	添付資料-3 〇〇工法・施工計画安全管理	自社基準	—
耐久性	強度	△△強度	△△強度 < W/mm ²	適合	△△強度 < W/mm ² であることを確認した	従来も△△強度 < W/mm ² であることを確認している	施工実績	施工実績において自社で確認	添付資料-4 鋼筋第一号 P.〇	『土木工事共通仕様書 〇-〇-〇 △△』平成〇〇年版 P.△△～◇◇	—
耐久性	耐久	〇〇の耐久性	〇〇がないこと	適合	〇〇による〇〇がないことを確認した	従来も〇〇による〇〇がないことから同等	施工実績	施工実績において自社で確認	添付資料-4 鋼筋第一号 P.×	『土木工事共通仕様書 〇-〇-〇 △△』平成〇〇年版 P.△△～◇◇	—
耐久性	耐力	特性値を保持する期間	—	—	〇〇以上保持が必要であることを確認している	従来も△△年で保持が必要なので同等	施工実績	〇〇〇〇工法・鋼筋第一号 P.△	添付資料-4 鋼筋第一号 P.△	『土木工事共通仕様書 〇-〇-〇 △△』平成〇〇年版 P.△△～◇◇	—
品質・出来形	材料	材料の規格	JS 〇〇〇	適合	使用材料はJS 〇〇〇であることを確認している	従来も使用材料はJS 〇〇〇なので同等	施工実績	JS 規格 〇〇〇〇鋼筋センター	添付資料-4 鋼筋第一号 P.〇	『土木工事共通仕様書 〇-〇-〇 △△』平成〇〇年版 P.△△～◇◇	—
品質・出来形	施工	使用機械	〇〇を使用し施工すること	—	〇〇を使用し施工することを確認している	従来も〇〇を使用し施工することを確認している	施工実績	施工実績において自社で確認	添付資料-2 〇〇〇工法施工要領	自社規格	—
品質・出来形	完成物	〇〇の構造仕上げ	厚 ±〇〇mm	—	厚 ±〇〇mmであることを確認している	従来も厚 ±〇〇mmであることを確認している	施工実績	施工実績において自社で確認	添付資料-2 〇〇〇工法施工要領	『土木工事共通仕様書 〇-〇-〇 △△』平成〇〇年版 P.△△～◇◇	—
施工性	合衆能	工機	—	—	従来も100m/1日 90%の速さで向上	施工実績	施工実績において自社で確認	添付資料-2 〇〇〇工法施工要領	—	—	—
施工性	現場条件	作業スペース	〇m × 〇mの作業スペースが必要	適合	〇m × 〇mの作業スペースがあれば施工可能であることを確認している	従来も〇m × 〇mの作業スペースが必要なので同等	施工実績	〇〇〇工法・鋼筋第一号 P.●	添付資料-4 鋼筋第一号 P.●	自社基準	—
施工性	通風断熱	通風断熱	△△～〇〇の範囲内であること	適合	△△～〇〇の範囲内で施工可能であることを確認した	従来も△△～〇〇であることを確認している	施工実績	〇〇〇工法・鋼筋第一号 P.△	添付資料-4 鋼筋第一号 P.△	自社基準	—
施工性	白濁条件	天候	雨天・降雪は施工しないこと	適合	雨天・降雪は施工しないことを確認している	従来も雨天・降雪は施工できないので同等	施工実績	施工実績において自社で確認	添付資料-2 〇〇〇工法施工要領	自社基準	—
施工性	白濁条件	気温	気温 40℃以下	—	施工時の周囲温度が40℃以上、40℃以下であることを確認している	従来も気温に異なる制約があるのと同様	施工実績	施工実績において自社で確認	添付資料-2 〇〇〇工法施工要領	自社基準	—
施工性	施工管理	施工管理項目及び関係	—	—	毎の施工管理は、〇〇mに1回行っていることを確認した	従来も施工管理が、〇〇mに1回必要なので同等	施工実績	施工実績において自社で確認	添付資料-2 〇〇〇工法施工要領	『土木工事共通仕様書 〇-〇-〇 △△』平成〇〇年版 P.△△～◇◇	—
施工性	運搬	熟練工への依存度	熟練工への依存度	適合	〇〇の取り扱いには、△△の資格者が行っていることを確認した	従来も〇〇の取り扱いには△△の資格者によるので同等	施工実績	施工実績において自社で確認	添付資料-2 〇〇〇工法施工要領	自社基準	—
周辺環境への影響	社会環境	見直し	〇〇のリサイクル	適合	〇〇をリサイクルし施工できることを確認している	従来も〇〇をリサイクルしていないことから、廃棄物の減少が図れる	施工実績	〇〇〇〇鋼筋センター	添付資料-2 鋼筋第一号	自社基準	—
周辺環境への影響	作業員環境	作業員環境	作業員環境への配慮	適合	作業員環境において作業員へ〇〇を供給し、適切な配慮を講じていることを確認した	従来も作業員環境において作業員への配慮を講じている	施工実績	施工実績において自社で確認	添付資料-2 〇〇〇工法施工要領	『土木工事安全技術施工計画 安全措置第一号』平成〇〇年版 P.〇〇	—

①を記載した場合、以降②～⑧は必須となります。

⑦は、様式2の添付資料に記載したものと
同じ内容になっていますか？
※開示できないものは参考資料として下さい。
※様式2は根拠データにはなりません。

引用元には、発行年、
発行元、項目、頁数も
記載されていますか？

標準的な基準や自社基準等も
無く、①が記入できずに
「—」となった場合は、②⑧
も「—」となります。

④は、様式2の活用の効果と
整合させて下さい。

小項目、①、③の記載内容は、
整合していますか？

⑤は、③がどのような条件下
で得られた数値なのか具体
的に記載されていますか？

⑥は、実測法と機関名の
両方が記載されていますか？

◆「比較表」について

- ・「比較表」は、発注者(国土交通省職員)が活用等を検討する際に、従来技術や類似技術と比較検討するための参考資料として使用されます。
- ・従来技術と申請技術との比較に際しては、「技術概要資料」、「詳細説明資料」との整合を図りながら各項目の記載及び評価を行ってください。
- ・既存のNETIS登録技術の情報につきましては、NETISホームページの情報が転記されるようになっています。
- ・申請技術⇄従来技術の比較結果を下記4段階で記載してください。

【記載例】

- ・著しく向上：「◎」
- ・向　　上：「○」
- ・同　程　度：「△」
- ・低　　下：「×」

■「比較表」の記載要領

A 工法概要

- ☐ アブストラクト程度の表現で記載できていますか？
 ※特に「売り」がどこなのか分かるようにお願いします。
 ※技術概要資料の概要(アブストラクト)を転記することを勧めます。
 Point

B 概略図

- ☐ 技術の概要が確認でき、視覚的に特徴がつかみやすいものになっていますか？
 ※写真、イラスト(模式図、フロー等)等を挿入してください。

C 品質・出来形、現場条件、設計条件、安全性、施工性、環境

- ☐ 技術概要資料、詳細説明資料の各関連事項に記載した内容と整合がとれていますか？
☐ 新技術の記載事項と対応する内容を記載していますか？
☐ 比較内容の整合が図れていますか？

D 備考

- ☐ 特筆すべきことがある場合に記載して下さい。

	新技術 ○○○工法	従来技術 ***工法	既存のNETIS登録技術 ×××式○○○工法	既存のNETIS登録技術	既存のNETIS登録技術
A 工法概要	本技術は●●●で従来は△△△で対応していた。 本技術の活用により■が期待できる。	□□を用いた△△△をする***工法である。	本技術は●●●で従来は△△△で対応していた。 本技術の活用により□□が期待できる。		
B 概略図					
品質・出来形	□□年以上改修が必要 使用材料:JIS○○○ 厚±○○mmにより施工精度が向上	△△年で改修が必要 使用材料:JIS○○○ 厚±△△mm	△△年で改修が必要 使用材料:JIS○○○ 厚±△△mm		
現場条件	○m×○mの施工エリアが あれば施工可能	○m×○mの施工エリアが あれば施工可能	○m×○mの施工エリアが あれば施工可能		
設計条件	設計時に○○○の確認が必要	設計時に○○○の確認が必要	設計時に△△△の確認が必要		
安全性	施工後に△△△がない 作業員に対する事故等の発生はない	施工後に△△△がない 作業員に対する事故等の発生はない	施工後に△△△がない 作業員に対する事故等の発生はない		
施工性	施工範囲△△△～□□により適用範囲の拡大 が図れる ○○○の取り扱いに△△△の有資格者が必要	施工範囲▲▲～■ ○○○の取り扱いに△△△の有資格者が必要	施工範囲▲▲～■ ○○○の取り扱いに△△△の有資格者が必要		
環境	○○○をリサイクルし施工できる	○○○の処分が発生	○○○の処分が発生		
その他 (自由設定)					
その他 (自由設定)					
NETIS番号	—	—			
備考	—	—			
総合評価	◎	—	○		

既存のNETIS登録技術:
 NETISで検索できる類似技術は
 網羅できていますか？
 ※既存のNETIS登録技術の欄
 は、比較案の数に応じて、追加
 してください。

新技術の記載事項と対応する
 内容を記載していますか？
 比較内容の整合が図れてい
 ますか？